

# 体験で知る 林業の仕事

未来の担い手を応援する  
林業後継者育成活動事例集

令和5年度  
未来の林業を支える林業後継者養成事業

# 体験 林業の 仕事 を知る

未来の担い手と応援  
林業後継者育成活動事例集

令和5年度  
未来の林業を支える林業後継者養成事業



全国林業研究  
グループ  
連絡協議会



# まえがき

この度の令和6年能登半島地震により被災された皆様、ならびにそのご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

さて、政府は花粉症対策を速やかに実行するため、令和15年度までに花粉発生源のスギ人工林を約2割減少させることを目指し、将来的には花粉発生源の半減を目標とする政策を進めており、林業の役割が改めて重要になってきています。ところが林業現場では人材不足が深刻になってきており、林業を担う若者の確保・育成は大きな課題となっています。

そのような中、私たち全国の林業研究グループメンバーが、いかに地域の若者たちに林業を知ってもらい、仕事として認識してもらえるように働きかけていくかが重要になると考えます。林業の仕事の魅力を伝え、就業希望者のすそ野を広げ、現場での技術指導等を通じて林業教育を支援するなど、私たち林研グループだからこそできる様々な活動があります。

これからの林業を支える人材育成に寄与するため、一丸となって多様な担い手育成事業を推進する運動を繰り広げてきました。地域の林業後継者や将来を担う未来の就業者、新たに林業に就業したい人々、そして女性に向けた様々な支援活動です。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられ、私たちの日常も以前のような活発さを取り戻しつつあります。そうした中で高校生や大学生など若い層を対象としたインターシップ、林業経営・就業体験、林業技術研修などを実践してきました。そして地域の林業全般に関わる業種に触れ、就業先の選択の1つとして林業という仕事の魅力を心に刻んでもらうことができました。

また、女性の林業就業を支援する活動も全国に広がりました。体面での男女差を考慮する中で、林研グループの活動から、安全に、無理なく働ける就業環境づくりの工夫やアイデアが生まれ、男女共通の魅力ある職場づくりに寄与する成果も生まれています。

このような全国での支援活動は、私たちの仲間だけで実行できるものではありません。高校や大学等、地域の教育関係者、そして技術指導などを支援する林業関係者の方々の理解と協力を得て、はじめて効果のある活動づくりが可能になります。

本書は、後継者の育成支援、林業就業促進支援等はもちろん、林研グループ等の活動、さらには地域の仕事創出支援に欠かせない生産技術や流通・販売ノウハウ等を実践事例から紹介しました。

実践のためのノウハウ、ヒントの数々が盛り込まれています。地域での林業後継者づくりに繋げるためにも、地域の教育機関とも連携した活動に、ぜひ本書を役立てていただければ幸いです。

本書の取りまとめに当たりましては、ご協力いただきました林業関係高校、大学校等教育機関、都道府県林業普及指導員、市町村、森林組合、森林所有者の皆様、全国林業改良普及協会ほか、大勢の方々に深く感謝いたします。

令和6年3月

全国林業研究グループ連絡協議会

会長 齋藤 正

令和5年度 未来の林業を支える林業後継者養成事業

体験で知る林業の仕事 未来の担い手を応援しよう 林業後継者育成活動事例集

目次

まえがき…………… 3

第1部 森林と林業の仕事を伝える

林業系技術公務員を目指す

専門学校生・高校生の現場研修会

北海道林業グループ協議会「北海道」…………… 8

林業大学校生が指導役

高校生の林業機械体験

北秋田森林・林業振興会「秋田県」…………… 12

除伐、丸太切り、ツリークライミング  
道具を使い、身体を動かす林業体験

南信州林業研究会「長野県」…………… 16

ツリークライミング体験で

木と友だちになるきっかけ作り

高根町林業改良クラブ「岐阜県」…………… 20

1～3年生のグループ、プロセッサ、

ハーベスタ、フォワーダ体験学習会

京都府林業研究グループ連絡協議会「京都府」…………… 24

学校・県と連携し、充実を目指す  
就業に繋がる林業教室を

和歌山県林業研究グループ連絡協議会

女性林研部会「和歌山県」…………… 28

仕事としての林業に興味を持ってもらう  
小中学生の林業教室  
西井川林業クラブ〔徳島県〕……………32

地域の高校生と担い手を繋ぐ！  
林業機械操作研修と間伐研修  
上益城地区林業研究グループ連絡協議会〔熊本県〕……………44

学校林で林業インターンシップ  
初めての伐倒・グラップル操作体験  
周桑林業研究グループ〔愛媛県〕……………36

先輩方へ続け！5日間の就業体験  
ドローン、機械操作、造林、間伐、視察  
鹿児島県林業研究グループ連絡協議会〔鹿児島県〕……………48

林業機械、チェーンソー、木材を学ぶ  
林業の仕事体験学習会  
宇和島地区林業研究グループ連絡協議会〔愛媛県〕……………40

第2部 山づくり 人づくり ものづくり チャレンジ！

大洲産原木シイタケの食育活動  
大洲市女性林業研究グループ〔愛媛県〕……………54  
百万ドルの森に夢をこめて  
若桜町林業研究会〔鳥取県〕……………56

増収を目指して！  
ハラン栽培の難題解決  
東彼林業研究会〔長崎県〕……………58  
森林環境教育で次世代へつなぐ  
富山地区林業研究グループ協議会〔富山県〕……………60

薪販売で持続可能な里山づくりを！

五名里山を守る会「香川県」……………62

体験教室で森林の魅力伝える

栃木市林業振興会「栃木県」……………70

木の循環利用を学校林で丸ごと体験

FW・OGACHI

(フォレストワーカー・ドット・おがち)「秋田県」……………64

スマホを持って所有林を探しに行こう！

大江町光林会「山形県」……………72

マツタケと薪ストーブに魅せられて

頸北林業研究会「新潟県」／小池秀則さん……………66

宮崎県産「原木椎茸」を

食のプロを通じて世界へ発信!!

高原町林業研究グループ「宮崎県」……………74

山に生きる姿を子どもたちに伝える

松阪林業研究会「三重県」……………68

## 巻末資料

林業で働くために……………78

森林・林業に関する学科・コース設置校一覧表(林業大学校等)……………80

令和5年度 未来の林業を支える林業後継者養成事業 実施グループ一覧……………81

全国林業研究グループ連絡協議会 事務局一覧……………82

第1部

森林と林業の仕事伝える

事

高校生等の林業就業促進現地活動

例

# 林業系技術公務員を目指す 専門学校生・高校生の現場研修会 北海道林業グループ協議会「北海道」



製材場で胆振東部地震による被害木利用を知る  
札幌工科専門学校の学生たち

専門学校生を新たに加え  
次世代に繋がる人材育成を

北海道林業グループ協議会（会

長・佐野大祐 以下、道協議会）  
は、道内32の林研グループが加入  
し、会員数は388名中、男性が

352名、女性が36名となっております。各林研グループの人数は4（35名までと様々ですが、広大な北海道の各地で地域の森林・林業、木材産業の活性化に向けた活動に取り組んでいます。

道協議会ではこれまで毎年、高校生等に林業に関する専門技術や知識を習得してもらうとともに、林業への就業促進を図ることを目的とし、森林・林業に関するコースが設置されている岩

見沢農業高等学校（以下、岩見沢農業高校）・旭川農業高等学校・帯広農業高等学校による森林科学科の生徒を対象にインターシップ等（林業体験実習）を開催してきました。

令和5年度からは、

造園緑地科

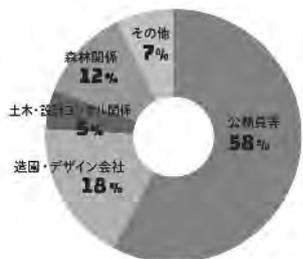


図1 札幌工科専門学校造園緑地科生徒の就職実績 (H29～R4年)

※資料：札幌工科専門学校ホームページより

森林・林業を学ぶ専門学校である札幌工科専門学校（以下、専門学校）を加え、4校を対象としました。これらの事業は、林野庁北海道森林管理局、北海道庁水産林務部、道内各地域の北海道（総合）振興局林務課・森林室、森林組合、林業事業者、林家等のご支援を受けて実施しています。その中でも今回は2つの研修事業を紹介します。

## 札幌工科大学専門学校の 森林実習現場見学会

9月14日（木）、北海道胆振総合振興局林務課、厚真町、苫小牧広域森林組合のご支援のもと、専門学校造園緑地科の学生を対象にした森林実習現場見学会を開催しました。

造園緑地科は、卒業生の約6割が公務員への就職という実績となっています（図1）。現場見学会には、将来、林業系技術公務員へ

の就業を目指す16名（1学年8名、2学年8名）の学生が参加しました。

当日は、あいにく雨が降る中で現地見学となりましたが、学生たちは熱心に現場を見学しました。

### 胆振東部地震 「森林再生の実施状況」現場

平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震により、林地崩壊が発生し4293haの森林が崩壊しました。被害を受けた厚真町、安平町、む



札幌工科大学専門学校の森林実習現場見学（厚真町）

かわ町では、森林被害を早期に復旧し地域林業の復興を図るため、治山施設の整備、林道等の復旧、森林の造成を行っていただきます。

学生たちは、①震災被害の状況確認、②復旧現場の状況と課題、③復興への取組と課題につ



崩壊地で森林再生の方法を検討

いて、現地を見学しながら検討を行いました。

現地が終わった後、厚真町総合福祉センターに移動し、室内研修として厚真町産業経済課森林再生グループ宮主幹から、厚真町が進めている森林災害復旧にかかる業務や進捗状況、今後の方向性などについて説明を受けました。

### 被害木の木材利用を知る

午後からは、むかわ町穂別にバスターミナルまで移動し、苫小牧広域森林組合のチップ・製材工場及び木質ペレット製造場の見学です。ここでは、胆振東部地震森林再生現場から搬出された丸太などの木材利用について森林組合職員から説明を



厚真町役場職員の説明を受ける学生たち

受け、被害木がどのように活用されているか知ることができました。

### 学生たちの感想から

研修を終えた学生たちの感想を紹介します。

・災害復旧現場見学ということから通常の森林施業ではない現場でしたが、治山や森林の再生が

され、人々の生活や林業が安定して初めて復興になることがよくわかる研修でした。

・仕事として森林にかかわる目的がわかる体験だったと思います。

・北海道や厚真町、苫小牧広域森林組合で、現場で対応されているご担当者の方々と現場で直接交流を持てたことで、新聞報道ではわからない仕事を体感できました。

・都市部ではなかなか触れることができない林業の現場に行く機会をいただき感謝します。

・都市部ではなかなか触れることができない林業の現場に行く機会をいただき感謝します。

### 岩見沢農業高校 森林科学科の 職場訪問研修

11月16日（木）には、北

海道水産林務部森林活用課、林野庁北海道森林管理局総務課のご支援のもと、岩見

沢農業高校森林科学科2年生の生徒を対象にした職場訪問研修を開催しました。午前には北海道庁、午後から林野庁北海道森林管理局を訪問しました。

この職場訪問研修は、平成23年から実施しており、この研修を契機に多くの生徒たちが公務員試験を受験し、試験合格後は、林野庁職員、北海道職員として各地で活躍しています。

過去3年間では森林科学科卒業生の25%が林業系技術公務員への就職をしています（図2）。

過去3年間の卒業後の進路状況

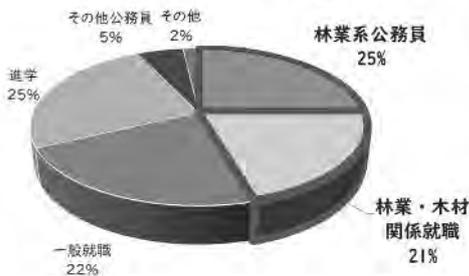


図2 岩見沢農業高校森林科学科生徒の進路状況（令和2～4年）

※資料：岩見沢農業高校提供

### 北海道庁水産林務部訪問

道庁では来庁者に木の良さを感じてもらい木材需要の喚起に繋げることを目的に、道産木材を使い1階ホールやベンチ・テーブル等を木質化しています。見学した生徒たちは木材に触れ木の良さを感じるとともに、北海道職員の業務の一端を知ることができました。

次に実際に業務を行う森林活用課を訪れ、どのような仕事をしているのかを見学しました。

この後、会議室に移動し、①北海道の森林・行政について、②北海道職員になって、③北海道職員の概要について、研修を受けました。

北海道が進めている百年先を見据えた林務行政や森林室・林務課の業務について、総務課の職員から話を聞きました。

現在、北海道職員として勤務している同校先輩からの講義では、生徒から多くの質問が出るなど、特に興味深く話を聴いている様子でした。また、職員となった場合の給与や休暇・厚生などについても説明を受けました。



森林活用課を訪ね、道職員の実務を見学

問も、生徒たちに

た。

のお礼を述べまし

た。

「ぜひ林野庁職員

と引率の教諭が入

室しました。吉村

後には、道森林管

理局長室を訪問さ

せていただくこと

ができ、生徒全員

と引率の教諭が入

室しました。吉村

後には、道森林管

理局長室を訪問さ

林業、木材産業への就業機会の促

このことは、北海道における森林・

知識を習得することもできました。

ができました。

この度の研修を通じて、技術や

ができました。

## 北海道森林管理局訪問

午後からは、札幌市中央区宮の森にある北海道森林管理局を訪問

生徒たちは北海道林務職員の雰囲気を実感することができ、進路として北海道職員を目指す意識の高揚を図ることができたと思いま

さらに詳しい説明を聞くなど、国

有林行政への関心

の高さがうかがえ

ました。

研修講義の終了

後には、道森林管

理局長室を訪問さ



森林管理局の業務説明を聞く



生徒たちから森林管理局長へのお礼の言葉

とつて将来に向けた就業への夢やイメージをよりいっそう膨らますことができたものと思います。

進を図るとともに、高校生等の次世代を担う担い手の育成・確保に繋がることから、協議会では、これからも取組を継続していきたいと考えています。

今回の研修で、ご支援・ご協力をいただいた北海道胆振総合振興局林務課、厚真町役場、苫小牧広域森林組合の皆様、及び北海道水産林務部、林野庁北海道森林管理局の皆様へ感謝を申し上げます。

\*まとめ

北海道林業グループ協議会

事

高校生等の林業就業体験等

例

# 林業大生が指導役 高校生の林業機械体験

北秋田森林・林業振興会「秋田県」



フォワーダ体験。生徒はツメがぐらついて焦ったが「ゆっくりでいいからね」と声をかけてもらい、落ち着いてできるようになった

し、曲げわっぱや桶樽の伝統技術が受け継がれています。天然秋田杉の伐採は現在禁止されていますが、この地域で見ることが出来る樹齢250年超の群立は圧巻です。

当会は、秋田県、大館市、北秋田市、上小阿仁村の4つの自治体と、大館北秋田森林組合や地元林業研究グループで構成されています。活動目的の1つに「森林・林業に携わる者の育成」があり、高校生への体験学習会を、平成27年の組織改編以前から約30年続けています。

## 高校生への体験学習を 林大生が指導

具体的な活動では林業担い手育成事業として、県立秋田北鷹高等学校緑地環境科・森林環境コースの1年生と2年生にそれぞれ年1

回ずつ、高性能林業機械操作体験学習会（以下、体験会）を行っています。

この体験会の一番の特徴は、秋田県林業大生（以下、林大生）が高校生を指導することです。4～5学年先輩の林大生による指導は高校生に大きな刺激を与え、たった1日の体験会にもかかわらず、教える方にも教わる方にも、目を見張るような成長を促します。

この取組が始まったのは、以前林業大学の敷地で実施していた時で、当会の人手が足りなくなっていたので、林大生に試しにお願いしてみたところ、予想をはるかに超えた効果が得られ、定着しました。高校側も林大側も年間授業計画に組み入れており、当会では日程調整や打合せ、当日のスケジュール管理など運営の下支えをしています。

北秋田森林・林業振興会（以下、当会）が活動している大館北秋田地域は県北部、奥羽山脈を背景に

した米代川流域にあります。約8割が森林で、秋田杉の産地として昔から林業のほか木材加工が発達

## 林業機械体験学習会の実施

今年度は、9月4日(月)に1年生22名に対し、林業大学の敷地内で、チェンソー、グラブ、フォワーダ、ハーベスタ、バックホウの5つの林業機械体験学習会を行いました。

10月31日(火)には、2年生6名が上小阿仁村にある林大実習林で実際の現場作業に近い体験学習会を実施しました。この時の様子を詳しくお伝えします。

体験会に先立ち、林大生は教え



前例は高校生、後方に林大生。  
地域一帯にツキノワグマ出没に関する警報が発令中だったが、溢れる活気で弾き飛ばしているかのようだ

る内容や安全ポイントを考え、前日には実習林に行つて4つの体験学習コースを整備するなど準備をしました。1機種2〜3人で担当します。

高校生は4つの班に分かれ、班ごとに4コースを巡り、午前と午後で2巡します。

大人は安全確保に努め、林大教員が各コースに張り付き後方支援当会会員が流れを見ながら高校生を誘導しました。

## ハーベスタ体験コース

やってきた高校生とハーベスタ



ハーベスタ指導では、安全な作業とホースを損傷しないように、手元を見るだけでなく、視野を広くもつよう心掛けている

に向かつて歩きながら、指導係の林大生が「やったことある？」とたずねると高校生は「1年生の時一瞬だけ」と返答し、若者はその短い会話でもう打ち解けています。高校生が操縦席に座り、指導係は手元がよく見える位置に立つて手順を指示。エンジンがかかると両者とも集中した顔つきで、アーム

で掴んだ丸太を2mに玉切つて旋回しながら後方に積み上げました。待機している方の高校生は、アームの届かない位置で別の林大生から解説を受けています。時間を管理しながら進行する係と、安全や状況を見て指導者に伝えるバックアップ係に上手く役割分担できていました。

森林環境コースの生徒は通常20数名いますが、たまたまこの学年だけ極端に少なく、例年なら1種類の体験時間を1人20分で設定しているところ、今回は30分から40分も使え、林大生は「やべえ、こんなにじっくりやったら俺より上手くなるじゃん」と笑っていました。

林大生に指導のポイントをたずねると「どれだけわかりやすく教えられるか、を考えています」。そして「生徒の安全と、機械を壊さないためには、教えながら周りも見る必要があるので、視野を広くもつよう心掛けています」。

ハーベスタから降りてきた高校



ワイヤーでの荷掛け作業は初めての高校生と横に並んで指導

生は「はじめ緊張したけど、(林大生が)何でも聞きやすい雰囲気を作ってくれて、上手くできたら褒めてくれたりして、仕事としてやっていける自信ができました」。

### フォワード・グラップル・チェーンソーの体験コース

フォワードのコースでは、アームの操縦席に上る手足の掛け方など些細な動作の1つ1つまで手本を見せ、アームのエンジンをかけると、回転数上がりすぎないようにスロットルの位置を手を添えて教えています。丸太をつかむツメが大きくぐらついた時「いったん



チェーンソー基本動作を教える林大生。1人が手本を見せ、もう1人が解説した



次のコースの順番を待つ間に丸太に座って談笑。この時間も貴重な体験学習だ

止まって。もっとゆっくりでいいからね」と声をかけてもらい、高校生は気を取り直し、もう一度挑戦していました。

指導係と、分担して当たり、材が安全に到着するまで緊張を緩めず、大変な運動量でした。

チェーンソーコースでは玉切り

グラップルではウインチを使って材を引き上げる実習です。2人の高校生が斜面で荷掛けする係と、グラップル操作係に分かれて作業します。4人の林大生が、ワイヤーの扱い方や立ち位置など指導する係、ワイヤーと丸太の動きを見張る係、操縦の



高校生にはフォワーダで林道を走るのが人気だが、林大生は危険がないよう慎重に誘導していた

令和5年度 秋田北鷹高校緑地環境科  
(森林コース)の進路状況(林業分野)

進路先	人数
東京農業大学森林総合学科	1
秋田林業大学校	1
秋田県職員(林業)	2
森林組合	1
国立研究開発法人 森林研究整備機構 (旧森林開発公団)	1
木材加工会社	3

と伐倒木の枝払いをします。まずチェーンソーの基本動作から。1人の林大生が高校生の横に立ち、自分もチェーンソーを持って一緒

に動作をしながら手本を見せ、もう1人が口頭でアドバイス。これ以上わかりやすい教え方はないと思われるやり方です。安全動作が習慣化されるよう何度か繰り返してから玉切り、枝払いをしていました。

次のコースへの待ち時間ができた時、高校生と林大生が並んでしゃべっている場面があり、進路の話をしていました。

高校の先生は「この体験学習会がなければ林業を仕事としてイメージできない子も多いんじゃないかな」と言い、実際に今年の3年生23名中進学を含め9名が森林・林業関係我希望しています。「体験会は生徒たちの進路選択にもの

すごく役立つと思います」と話していました。

林大生の方では、教えることによる技術向上だけでなく、安全対策や仲間との連携を客観視できるようになり、職業としてのスキルが各段に向上します。

当会は会員の減少や予算不足など厳しい状況にありますが、このように双方が成長し合う相乗効果を目の当たりにすると、来年もまた頑張ろうと決意を新たにします。

### 帰り際のハプニング

高校生が帰路に着き出発しようとしたその時、事件は起こりました



林大生がスリングを引っ張り、高校生はバスを後ろから押した

た。バスがぬかるみにハマって立往生。タイヤはもがくほどに埋もれ、不安な空気が漂い始めた時、現場の片づけを終えた林大生たちがやってきました。

「全員で押せば出るんじゃないね?」。しかし泥は深くバスは重い。「グラップルだな」、教員の一言で接続するためのスリングを持ち出す者、それが短いとわかると2本をシャックルで繋げる者、荷掛けの要領でバスと繋ぐ者、一瞬で準備が整いました。「これなんだよ、林業技術の素晴らしさは」と教員。学習の成果全開の動きに、どんな災害が起きるかわからない時代でも、彼らは力強く切り抜けるに違いないと、その場にいた関係者全員が思いました。グラップルの到着を待つ間、林大生が綱引きのようにバスの引っ張り、高校生は後ろから押して、まるで運動会。山に爽やかな笑い声が響き渡っていました。

\*まとめ 編集部

事

高校生等の林業就業体験等

例

# 除伐、丸太切り、ツリークライミング、 道具を使い、身体を動かす林業体験

南信州林業研究会「長野県」



ツリークライミング体験  
アドバイスを受け地上6mを目指す

長野県南部を拠点とする  
活動団体

南信州林業研究会（以下、当

会）が活動する長野県飯田・下伊  
那地域は県の南部に位置し、森林  
面積は約16万7000haで長野県

下全森林面積の16%を占め、森林率は86%と長野県平均の78%を上回っています。民有林面積は約13万6000haと管内の82%を占め、うち人工林率は48%となっておりヒノキの割合が高いのが特徴です。

当会は昭和39年に林業青年グループとして発足し、その後、林業経営者協会や林業士会などのグループが一本化して現在に至ります。令和5年3月末現在の会員数は63名で、12支部によって構成されています。

## 山の恵みを味わう 研修科目

当会は、高校生等の林業就業体験等の研修として、森林や木材の多様な活用方法と作業体験を通じ

て林業の入り口に立つてもらおうことを目的に、長野県立下伊那農業高等学校（以下、下伊那農業高校）アグリサービス科の2年生を対象に実施しています。当会の会員3名が講師となっており、ツリークライミングの見学や伐倒作業の見学を行ったのち、作業種別毎にグループ研修を行います。

20年前までは下伊那農業高校に林業科がありました。現在には授業そのものがなくなっているため、この研修は生徒たちに楽しんでもらうことを念頭に置いています。また、当会の伊藤会長手作りのキノコ汁を全員で味わうことも研修の一環としてスケジュールへ組み込み、毎回好評です。

今年度は10月20日（金）に生徒15名を対象として研修会を行います。



会長手作りのキノコ汁を味わう いい匂いにつられて自然に笑みがこぼれる



林業体験研修会レイアウト 各班に分かれて体験した

した。開催日を決めるにあたり、下伊那農業高校のホームページから年間行事予定表を打ち出した上で講師の方々から聞き取った日程を重ねていきますが、学校の行事も多種多様、かつ校外活動が可能な時間帯も限られ、昼食を組み合わせる調整が思うように進まず苦労しました。荒天用の屋内プログラムも一応準備しつつ、開催

日間近になるにつれ複数媒体の降水確率を見比べて気をもむ日々が続きましたが、何とか天候も持ちこたえてくれて屋外での開催を迎えました。研修会場には飯田市北三区財産区の御協力のもと、飯田市街地や南アルプスが一望できる佐倉神社周辺をお借りしました。こちらはトイレや水道も整備されているた

め、快適に過ごせる場所となっています。13時過ぎに生徒を現地へ迎え、始まりの会のあとに昼食をとります。大鍋2杯のキノコ汁には大量の野菜と13種類もの天然キノコが食材として使われており、「初めて食べるキノコもあって美味しかった」「2杯もおかわりしてお腹いっぱいになった」等々、生徒た

ちは喜んで味わっていました。腹ごしらえができたところで、いよいよ実習に入ります。

### 「カッコいい林業」と「緻密な林業技術」を体験

初めに、ツリークライミングの元日本チャンピオンであり、国際大会での入賞経験もある松岡さんに樹上作業の実演してもらいました。スポーツ選手が躍動する姿を見て「カッコいい」と感じるのと同様に、林業に携わると自身の姿を「カッコいい」と感じてもらえるよう活動発信をしていると説明してもらった後、会場敷地内にあるサクラの巨木に掛けられた複数のロープを操りながら木を傷つけないよう高所の枝から枝へ軽々と移動を繰り返し、ロープに身体を預けて枯れ枝を切る姿を見せてもらいました。

最初は何が行われるのかわからずに不思議な表情をしていた生徒たちも頭上で素早く移動する松岡さんの姿を見て、「移動速度も速く、楽しそう」「人間の動きとは思えない」等々、歓声を上げていました。



樹上作業見学 頭上6mの松岡さんの俊敏な動きに歓声が上がった

徒全員から歓声が上がりました。

その後は手鋸を使って各自枝払いの体験に入りますが、チェーンソーの作業スピードと比較してなかなか進まない手鋸作業に四苦八苦していました。

また、伐根まで近づいて実際にツルを触りながら解説を受けた生徒たちからは、「伐倒は力づくではなく計算されていることを知って驚いた」「伊東さんが常に安全確認をする姿が印象的だった」「伐採木周辺には芳香剤のような好い香りがした」等の声が聞かれました。

### 初めて使う道具・初めて行う作業

【参道付近の景観整備作業体験  
くつつじやサクラの美しい  
参道をつくること】

休憩をはさんで3班に分かれての体験学習になります。1班は剪

定バサミと手鋸を併用した除伐作業です。講師の伊藤

会長から切るものと残すものの見分け方や道具の使い方について説明を受けたのち、敷に入って作業を始めますが、切っていないものかどうかの判別を何度も講師に確認する姿が印象的でした。

つつじを傷つけないように気を配りながら作業を終えた生徒からは「来年きれいなつつじやサクラが見られると思うとやってよかった」「剪定バサミの使い方が学べてよかった」「伐採作業も大変だったが伐採したものを指定場所まで運ぶのも大変だった」等、そ

の体験学習になります。1班は剪

続いて財産区所有の森林へ移動し、チルホールが設置されたヒノキを見ながら南信州地域振興局職員より森林の持つ機能や手入れの必要性に加え、伐倒する方向を決める際の技術について説明を聞いたのち、林業士の伊東さんの実演による伐倒作業の見学になります。チェーンソーを用いて受け口と追いつきが出来上がり、生徒代表がチルホールを操作してヒノキが倒れる瞬間を目の当たりにすると、生



伐倒後の枝払い 初めての手鋸作業を慎重に進める生徒



景観整備作業 つつじを傷つけないように



丸太切り作業体験 慣れてくるにつれ速度も上がっていく

それぞれの感想がありました。

【木の利活用体験  
～鋸を使って丸太切りをしよう～】

2班は講師の伊東さんに持参いただいた直径20cm程の丸太を手鋸で切る作業を行います。交代で切り始めていきますが、切り口がずれたり作業スピードが上がらなかつたりと思うような作業が行えず苦労の連続でしたが、講師から力入れ方等を助言されると効率も上がっていきました。作業終盤に

なるとグループ毎のタイムレースが始まり、今回の研修で一番の歓声が上がっていました。

「鋸を引く時に力を入れることを意識したらスムーズにいき3連勝できた」「切りたての丸太からはモデルルームの匂いがした」等の感想がありました。

【樹上作業体験  
～プロの技を教えてもらおう～】

3班はツリークライミングの体験になります。個人毎に安全装備

を整え、緊張した面持ちで講師の松岡さんから受けた説明通りに身体を動かしますが、腕の力だけで登ろうとするため、なかなか上へ行きません。そのうちに足の使い方を覚えると上手に登れるようになり、サクラの一番上まで登る生徒もいました。

「身近で見る講師のスピーディーな動きに驚いた」や「ロープ一本で自分が持ち上がっていく感覚が不思議だった」「最初は不安だったけれどやってみて楽しかった」等の声が聞かれました。

約40分間の班別体験学習を終え、終わりの会では生徒代表から「昼食から作業までとても楽しい時間を過ごせた」「この地域で林業に関わっている人々を知ることができた」といった感想が聞かれました。

未来の林業を支える一端として

学校関係者と事前打合せを行った際に「ネットからの情報は溢れているが、生徒たちは自分が興味のあることのみ検索しているため、林業に関して検索することはまず

ないのでは（林業というものはほぼ知らないのでは）」とのお話をいただきました。また講習の中で松岡さんからは「今まで【カッコいい林業】について発信されておらず、林業が若い世代から憧れの対象になっていないため、関係者が周知の仕方を構築していったほうがよい」とのお話をいただきました。

様々な情報が溢れている現代ですが、自身の目で見て身体を動かすことは何より貴重で大切なことだと思います。生徒から「来年以降もぜひこの研修を続けて欲しい」との声を多数聞いて、やりがいと同時に継続していく責任を痛感したところです。

また、この研修の講師をお願いした林業に携わる地域の方々、次代を担っていく若い世代の方々に繋げることも重要な位置づけとなることから、今後もこの取り組みを続けていきたいと思えます。

＊まとめ

南信州林業研究会 事務局

事

高校生等の林業就業体験等

例

# ツリークライミング体験で 木と友だちになるきっかけ作り 高根町林業改良クラブ「岐阜県」



飛騨高山高校でのツリークライミング体験

上田康美こづみ会長です。上田会長は山仕事に従事する傍ら、ツリークライミングインストラクター、ログビルダーの顔も持っています。

11月中旬、クラブの指導で開かれたツリークライミングの体験会を訪ねました。会場は岐阜県立飛騨高山高等学校（以下、飛騨高山高校）山田キャンパスの実習林で、環境科学科の生徒が参加しました。

**乗鞍岳、御岳山も  
一望できる高山市高根町**

当クラブが活動している高山市高根町は、北に乗鞍岳、南に御岳山と2つの3000m級の山を一望できる自然豊かな山里です。ノンフィクションや映画『あゝ野麦峠』で有名な野麦峠も高根町にあります。



上田会長が手がけたログハウス

「みんな、この景色を見て感動するんだよ。過疎だけど、こんないいところは他にないですよ」と上田会長。

クラブの設立は昭和45年ですが、林業の低迷期とともに活動は停滞し、それを復活させる形で平成17年に上田会長たちが引き継ぎました。現在は林業会社に従事する50

「木に登り、木と友だちになる

ことによって、木や自然を身近に感じ自然を大切にするようになる

んですよ」

そう語るのは岐阜県の高根町林業改良クラブ（以下、クラブ）の

60代の3名が会員です。

主な活動は、①森林の生物多様性に関する講義、②ツリークライミングに利用している大木の樹勢回復に向けた活動、③チェーンソーカービング)、ツリークライミングの見学・体験などです。

### ログハウス、ツリークライミングの世界へ

上田会長は20代から山に入り伐採などの仕事をしてきました。朝6時に出勤して帰宅は夜7時頃。冬はマイナス20℃以下になります。体力的にも厳しく、このまま続けて将来はどうなるのだろう、という思いもあつたそうです。

そんな時に倉本聰氏のドラマを観て、ログハウスを知ります。日本からカナダに渡った若者の奮闘記で、ログハウス作りを手伝うという話がありました。

このカナダのロケ地でログハウススクールの参加者を募集しているという企画を見つけたとたん、「頭が真っ白になった」と上田会長。30歳の時でした。このスクールには受講生やインストラクター



体験を前に生徒に話しかける上田会長



手伝ってもらいながらサドルなどを付ける

で3回参加。その後、冬は山仕事を休んでカナダに行くという生活が10年ほど続き、日本ではこれまで10棟ほどのログハウスを手がけ、チェーンソーカービングにも取り組んできました。

その上田会長がツリークライミングと出会ったのは40代のこと。飛驒の林業を盛り上げる道を模索していたところ、友人でもある俳優の故・渡辺文雄さんから紹介されたのです。

山の仕事を生業とし、木を知る上田会長ですが、初めてツリーク

ライミングを体験した時の感動は忘れられないそうです。

「すごい！こんな景色があるんだ！という驚嘆ですね。どんなに高い山で仕事をして、山の地面に立っているだけ。そこに立つ木の上に登った時、ほんとうに山と一体になったような、身体が解放される感覚を味わいました」

### 飛驒高山高校 環境科学科の生徒たち

ライミングの体験会が行われた飛驒高山高校は、高山市内にある岡本、山田という2つのキャンパスと、全日制、定時制、通信制の3つの課程を持っている県下最大級の学校です。

岡本キャンパスには普通科、商業科、生活産業科があり、山田キャンパスには食の農学科群(動物科学、食品科学)と緑の農学科群(園芸科学、環境科学)の4つの大学科、8つの小学科があります。緑の農学科群は1年生では全員いっしょですが、2年生になると園芸科学科と環境科学科に分かれます。

今年度（令和5年度）、緑の農学科群の1年生は46名、環境科学科の2年生は21名、3年生は16名です。環境科学科の生徒はさらに森林コースと土木コースとに分かれます。

## 高校実習林でツリークライミング体験

11月11日に開かれたツリークライミングの体験会。当日は土曜日でしたが、朝から環境科学科の2年生と3年生の希望者4名が参加しました。



10mくらいの高さまで登る生徒たち

クラブからは応援の人も含め上田会長以下4名が参加しました。みなツリークライミングジャパン（TCJ）公認のライセンスを取得しています。

「体験会を安全に進めて行くには指導者はそれなりの人数が必要なんですよ」と上田会長。

実習林の前でスタッフも生徒も、そして取材者もまずヘルメットの装着から始まります。

最初は高木にロープを取り付けるロープセッティング。枝の股をねらって、ロープを付けた重りを

投げたり、「巨大パチンコ」のような器具を使ったり。「風が強くて、大変だよ」（上田会長）と言いながらも無事に取り付けることができました。生徒たちはそれを林の端から見学しました。

その後、生徒たちは手伝ってもらいながら身体を支えるサドルなどを身に付け準備ができたなら、いよいよツリークライミングの体験

です。生徒たちを前に上田会長はこんな話をしました。

「ツリークライミングは、森に入り、木と友たちになって、自然を大切にすることを基本としています。木に登る時には『よろしくね』と声をかけ、降りてきたら『ありがとう』と言うと、木がパワーをくれるんです」

そしてロープの結び方を練習してから登ってゆきます。最初はぎこちなく、樹の上の方まで登れるのだろうかと思っていました。生徒たちはほとんどスルスルと10mくらいまで上がったでしょうか。若さですね。しばらく樹上の景色を楽しんでいました。

生徒たちはスタッフの方に「降ります」と言ったら合図を送ると、スタッフが「はい、ではロープから手を話して」との指示を出し、無事地上に戻ってきましたが、みな興奮冷めやらぬと言った感じでした。

「最初は高い樹の上に

登るので怖いと思ったけど、慣れてくると、風景が一変して気持ち良くなり、楽しかったです」と生徒の1人は話してくれました。

## チェンソー技術の講習会も

上田会長たちは、11月24日（金）には、同じ飛騨高山高校の山田キヤンパスで、環境科学科の生徒を対象にチェンソー技術の講習会も行いました。

まずチェンソーの基本的な扱い方や注意点などを説明。その後、大きな丸太の上に小さな丸太を乗せて固定し、小さな丸太を球状に



丸太を球状に削ってゆく練習



リスを彫り上げてゆく上田会長

進学先は大  
半が土木や建  
築、ITビジネ  
スなど工学関係  
の大学、専門学  
校ですが、森林  
関係では岐阜県  
立森林文化アカ  
デミーがありま  
す。また就職先  
は、土木、建設

### 子どもたちを対象にした ツリークライミング

クラブのツリークライミングは、

り外したりしました。  
おそらく馬搬を授業で取り入れ  
ている学校は全国でもそうないで  
しょう。地域の関係団体の協力が  
不可欠ですが、そのための準備、  
協力要請のために割く学校、先生  
方の熱意に脱帽です。

「子どもたちは最初はガチガチ  
に緊張していても、登り始めると  
緊張がほぐれ、心底楽しそうにな  
るんです。自然には心を解放する  
力があるんですね」と上田会長は  
言います。

\*まとめ 編集部

チェーンソーで削っていきます。  
いわゆるチェーンソーカービン  
グの基礎ですが、球を上手に作れ  
るといことは、チェーンソーを  
上手に操れる技術があるというこ  
とを意味します。  
上田会長が手本を示してから生  
徒が削り込んでいきます。少しず  
つ慎重に削り、球に近づけていき  
ます。

コメントもありました。  
講習会の後半には、見本として、  
上田会長が大きなチェーンソー  
本でリスを彫り上げました。かか  
った時間は10分ほど。当日は雪が  
降り出しそうな寒い日でしたが、  
この時だけは寒さを一瞬忘れそう  
な時間でした。

### 森の良き理解者、応援団に

飛騨高山高校環境科学科の生徒  
の進路選択を見てみると、最近3

関係の会社が多く、森林関係で  
は地元の飛騨高山森林組合など  
があります。  
このように森林関係へ進学、  
就職する生徒は限られています  
が、環境科学科の穂波輝樹教  
諭は、「現在、山で働く仕事は、  
私たちの目に触れる機会が少な  
い産業です。今回のようなツリ  
ークライミングやチェーンソー  
アートの体験を通し、「森の良  
き理解者」「森の応援団」にな  
ってもらうきっかけになればと  
思います」と語ってくれました。



子どもたちのツリークライミング体験会（本巢市で）

高校生だけでなく小中学生など子  
どもたちも対象にしたものが多い  
です。

12月上旬には、同じ岐阜県内に  
ある本巢林研クラブのツリークラ  
イミング体験会に応援で参加して  
きました。

事

高校生等の林業就業体験等

例

# 1～3年生のグラップル、プロセッサ、ハーベスタ、フォワーダ体験学習会 京都府林業研究グループ連絡協議会「京都府」



3年生によるフォワーダ体験。  
指示を受けながら操作に集中！

では会員の高齢化にともない活動を休止するグループもあり、現在

230名のうち男性が197名、

女性が33名と、全体の会員数は

年々減少傾向にあります。各グル

ープの規模は大小様々ですが、そ

れぞれの地域の実情に沿った活動

を展開しています。

府林研協では、林業に対する関

心を高め、生徒の林業就業の促進

と支援を行うことを目的に、府内

で唯一林業科が設置されている京

都府立北桑田高等学校京都フォレ

スト科の生徒を対象として、高性

能林業機械を使った造材作業の見

学と、実際に林業機械の操作を体

験してもらおう「高性能林業機械体

験学習会」(以下、体験学習会)

を毎年開催しています。平成20年

から実施し、今年で14回目を迎え

ました。

グラップル、プロセッサ、  
ハーベスタ、フォワーダ  
操作体験

体験学習会の会場は学校から近く、府林研協の一員である京都市林業研究会の活動フィールドにもなっている京都市右京区京北の京都市市有林「合併記念の森」で開催しています。

1～3年生の生徒に操作体験をしてみよう林業機械は、グラップル、プロセッサ、ハーベスタ、フォワーダの4種類各1台。グラップルとフォワーダは、学校で所有されているものを、その他の林業機械は、府林研協の役員が所有する林業機械を使用させていただき、生徒たちに林業機械の操作方法を

## 府林研協の活動

京都府林業研究グループ連絡協

議会(以下、府林研協)は、府内

5つの林研グループと、青年部、

女性部で構成されています。近年

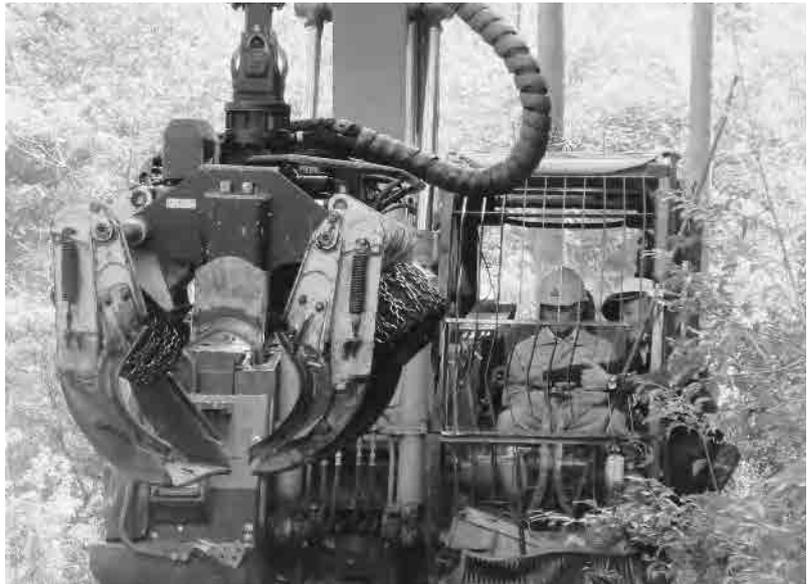
指導する指導員として、学校の先生、府林研協役員、従業員の会社の方々に、お世話になっていきます。

開催時期は、年度によつて若干異なりますが、高校の年間カリキュラムに入れていただくことができることから、おおよ

そ10〜12月までの間に2、3日間開催しています。

令和5年度は、各学年1日ずつ、授業時間45分×4コマで、10月16日（月）〜18日（水）の3日間開催しました。

操作体験をしてもらう林業機械はグラップル、プロセッサ、ハーベスタ、フォワーダの4台であることから、事前に4つの班に分け、



プロセッサの操作方法を真剣に聞く1年生

1班1台45分のローテーションで生徒たちが4台すべての操作を体験できるようにしました。

また、操作体験の事前準備として、プロセッサやハーベスタでの造材作業に必要なスギ、ヒノキの伐採を、1日目は開催日当日の朝に、2日目、3日目の分については体験学習会終了後に約40本程度を、スタッフで伐採しました。

## 開催1日目 1年生の初！操作体験

1年生は、体験学習会も機械操作体験も初めてです。

まずは、どの林業機械の班も指導員から「どのような作業をする林業機械なのか」を丁寧に説明してもらった後、いよいよ生徒自身による操作体験です。いずれの機械も初めて操作するため、旋回の

方向を間違えたり、スピードを出しすぎたりと戸惑いながら操作していました。

特に、プロセッサとハーベスタについては、初めて実物を見る生徒もおり、その迫力に圧倒されるとともに大歓声が上がります。

生徒は指導員のアドバイスに耳を傾けながら造材に挑戦。しかし、なかなか上手に操作できず何度も何度も失敗していました。ようやく1本造材できた時の喜びや安堵した様子が印象に残りました。

## 開催2日目 前年体験したけど、 2年生の操作体験

2年生は、前年に少しですが林業機械の操作を体験しています。早速、4班それぞれが4種類の林業機械が設置された場所に分かれて待機。初めに指導員から機械の概要説明を受けると、いよいよ操作体験の始まりです。プロセッサ、ハーベスタの班は、指導員同乗の



体験学習会終了後の集合写真。ほっとした表情を見せる1年生たち



ハーベスタで1本目を造材中（2年生）

もと操作方法を聞きながら、最初の1本を造材します。操作体験を見ている生徒からは、一定の長さで造材していく機械の動く様とチーンソー音に驚きながらも感嘆の声が上がります。

2本目からは、1人での操作です。指導員から教わった操作方法を思い出しながら真剣なまなざし  
で挑戦しますが、こちらもなかなか上手く操作できません。しかし、指導員からアドバイスをもらいながら本数を重ねるうちにだんだんできるようになり、緊張でこわばっていた顔がほころんでいきます。フォワーダの班は、林内にある作業道を使用しての操作体験です。指導員から操作方法を聞き、1人



2年生によるフォワーダ操作。車幅や内輪差に注意をはらって

で運転します。車幅やカーブを曲がる際の内輪差に注意しながら慎重に運転していました。  
グラップルの班は、指導員である先生から操作方法を聞きながらの体験です。短く切った丸太を縦に積み上げていきます。生徒たちは、丸太をいくつ積み上げられるかを競いながらゲーム感覚で操作体験していました。グラップルは、学校の授業でも使用していることもあり、他の林業機械に比べて上

どの機械も、1年生、2年生に比べ操作がスムーズで、プロセッサとハーベスタを操作する生徒の中には、指導員から「この子、操作上手いなあ」と褒められる生徒もいました。  
また、グラップルの操作体験では、なかなか上手く積み上げられない生徒がいる中で、用意してあった丸太7個を縦に高く積み上げる生徒もおり、見学していた生徒たちも驚いていました。

手に操作してました。

**開催3日目  
操作が  
スムーズ！  
3年生の  
操作体験**

3年生は、過去に2回体験学習会を経験しています。復習も兼ねて、指導員から簡単な機械操作の説明をしてもらい、その分、操作体験の時間を長くとりました。

今後に向けて  
継続

今年度も3日間の体験学習会が無事終了しました。終了後には、生徒代表から指導員の方々へ「授業では体験できない林業機械の操作体験ができました。将来のために役立てていきたいと思えます」とのお礼の挨拶がありました。

3日間を通して、生徒たちが真剣に操作する姿や、時には楽しそうな表情を見ると、今年度も開催して良かったなあと思います。

先生に感想を伺ってみると、「日頃の授業ではできない体験をさせていただいている。学校の年間カリキュラムにも入れているので今後も引き続きお願ひしたい」と、高い評価をいただいています。

一方で卒業後の進路については、「いろいろな理由があるとは思いますが、林業関係に就職する生徒は少ない」とのことでした。

毎年アンケートを実施していますが、3年生のアンケート結果では、残念ながら「将来『林業』に関わる仕事をしたい」と思う生徒は少ないのが現状です。

今後も府林研協としては、微力ながら、少しでも生徒



指示通りにプロセッサを操作する3年生。褒められた生徒もいた



グラップルで丸太7段積み上げ成功！



終了後、指導員や関係者にお礼の挨拶をする3年生

たちに林業への関心を高めてもらいたい、1人でも多くの生徒が新しい林業を切り拓く、若き林業の担い手として活躍してもらえよう、この高性能林業機械体験学習会を続けていこうと思えます。

先日、この体験学習会が「きっかけ」で林業に従事している卒業生に出逢う機会がありました。大変嬉しく思いました。

\*まとめ

京都府林業研究グループ  
連絡協議会

## 事

高校生等の林業就業体験等

## 例

# 学校・県と連携し、充実を目指す 就業に繋がる林業教室を

## 和歌山県林業研究グループ連絡協議会 女性林研部会「和歌山県」



完成したクリスマスリースを持って  
生徒・教員たちと会員たち

### 女性林研部会の紹介

「木（紀）の国」和歌山県で唯

一の女性だけの会として、平成11年3月に発足した女性林研部会（以下、当会）は、林業や特用林

産物に携わる会員や森に興味のある会員で活動しています。

会員数は当初20名前後でしたが、ここ数年で29名になりました。森林・林業を勉強しながら、大勢の人にも興味を持ってほしいと試行錯誤しつつ活動してきて、25年目を迎えます。

平成15年から始めたヒノキの間伐材を使った押し花マグネット作りは、森林・林業の話とセットにして、小学生から大学生までを対象に体験講座を実施し、また各地の産業まつりや木の国わかやま木育キャラバンといったイベントにも参加して今なお大勢の人に喜ばれています。

### 高校生に向けた林業教室①

平成26年から2校の高校生に向

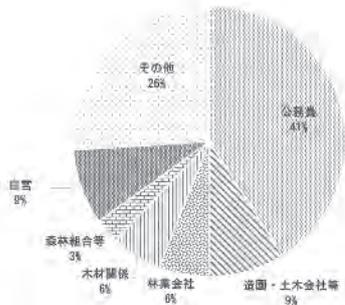
けて活動を始めています。1校目は、和歌山県立南部高等学校龍神分校（以下、龍神分校）です。「龍神材」で知られる田辺市龍神村にあり、学校の近くにある龍神村森林組合には良質の材が並ぶ木材市場があります。龍神分校は、県外と地元を含む県内の生徒が半々なので、地元の林業に対して温度差があることから、生徒へのアプローチの仕方や内容に配慮しながら取り組んでいます。

当初は、山の現状を知ってもらおうと、森林・林業や特用林産物の話から始めました。しいたけ栽培をしている会員がホダ木の伐採から植菌、乾燥、包装までを説明し、年間の売上高も公表、「一生懸命やれば、うまくいくよ」と。その後、持参したホダ木と駒菌で

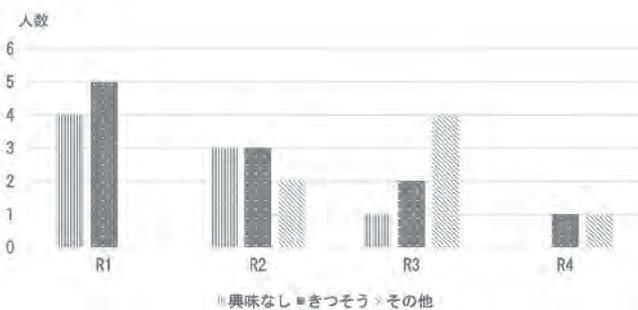
グラフ1 林業に関わる仕事がしたいか(累計)



グラフ2 グラフ1で「思う」「ある程度思う」と回答した場合  
将来就きたい職業<複数回答あり>(累計)



グラフ3 林業に関わる仕事に就きたくない理由



- ・蔓を採り、リースの土台作り
- ・木の葉(イチイ、黄金ヒバ、サツマスギ、アオキなど)
- ・木の実(ドングリ、松ぼっくり、ヤシャブシ、西洋ヒイラギ、クログネモチなど)

私たちメインの担当はクリスマスリース作りです。森の恵みである木の葉や実を使い、目や鼻で森を感じてもらうために材料集めに奔走しました。主なものとして

の植菌作業はスムーズに進み、高校生には林家の生の声を聴き、実践できるいい機会になりました。

**過去のアンケート結果から**

毎年、林業教室終了後、生徒にアンケートを実施しています。直近4カ年(令和元年度~4年度)の龍神分校の主なアンケート結果はグラフ1~3の通りです。1では、授業実施後には「思う」または「ある程度思う」との回答数は実施前より増加し、「思わない」の回答数は減少に。3でも、年々

林業に「興味なし」の回答数が減少傾向にあります。

これらの結果から、林業教室により高校生の林業に対する理解が進んだのではと思う一方で、実際就業へと結びついているのか不安もありました。生徒も毎回、真剣に取り組んでくれ、私たちも満足しながらも他にできることはないかと模索していました。

**学校・県と連携した取組へ**

そのような時、県から高校生により林業を知ってもらい、ひいて

は将来の就業に繋げる取組を始めるので、龍神分校の林業教室も一緒にとの連絡があり、喜んで受けることにしました。

新たな取組をより良いものにするために、何カ月も前から、高校側の意向も確認しながら、何度か打ち合わせを行いました。高校側からは、前述の通り、生徒には地元の林業に対する温度差があり、いきなり本格的に木を伐倒するより、まず1年生には林業を身近に感じることのできる授業、2年生には産業としての林業を体験でき

するような内容とし、単発で終わるのではなく、継続的かつ段階的な林業教室にしてほしいというものでした。

その意向を踏まえて県と内容を討議し、当会は1年生の授業を担当。県農林大学校及び県西牟婁振興局林務課と連携し、内容ごとに担当を分担し、実施していくことになりました。

**準備に余念なし**

授業内容の1つにハーベスタシミュレータの操作体験があり、私たちも事前に挑戦しようと研修会で講習を受けました。画面に向かい四苦八苦しながら、高性能林業機械のすばらしさを体験しました。

広い和歌山県に点在している会員のお陰で、豊富な材料が集まります。

## 講話、ハーベスタシミュレータ、チェーンソー体験

12月20日(水)、当会お揃いの黄色いパーカーで、10時に集合。1年生の男子5名と女子2名にスケジュールを説明後、いよいよ授業に入ります。

最初は、県農林大学校の職員による森林・林業の話です。パワーポイントを使い、途中で私たち会員の活動地域での実情も交えながら進めていきました。



県農林大学校の職員より森林・林業についての説明を受ける生徒たち



ハーベスタシミュレータの操作に挑戦する生徒

ハーベスタシミュレータの体験では生徒たちは緊張しながら取り組み、他の人の操作も真剣に見入っています。若い世代にはゲーム感覚なのか、のみ込みが早く感じられました。

場所を移してのチェーンソー体験は、まず防護服を身に着けます。チェーンソー操作は県農林大学校の職員から丁寧に指導を受けた後、1人ずつ丸太を切ります。トップバツターは女子生徒。初めてとは思えない回転数を上げたエンジン音は、山で仕事をする

人と同じ音でした。スパッと切った後の「できた」と言ったその顔は安堵感、達成感が入り混じっています。1kgの重さを予想して丸太を切る競争では、納得がいかず再挑戦する生徒もいました。高校生若さあふれる姿と、感覚や感情が味わえる体験に意義があると感じます。

### 県の特用林産物を知る森の恵みでリース作る

午後からは県西牟婁振興局林務課の職員から、和歌山県の特用林産物は紀州備長炭やさカキ、しい

たけなどがあり、木材の売り上げを上回っていることや、龍神地域の状況などの説明がありました。最後はクリスマスリース作り。リースの土台への取り付け方や材料の名前などを説明し、後は個性を出してほしいので聞かれた時のみアドバイスします。

作業中に、生徒たちと「ナラ枯れでドングリの木が枯れる」「シカが増えて植林地が荒らされている」「女子も山で木を伐る仕事をしているよ」などの話を交えながら進めていきました。

・森の恵みである材料を使いながら、山に繋がる気づきや感謝の気持ちを持つてほしい。  
・自然豊かなこの地で暮らす喜びを感じてほしい。

生活する上でややもすれば利便性を優先し、自然豊かであることに後回しにされることがありますが、右記のような自分の住んでいる地域の良さに気づいてほしいと願っています。

### 生徒からの感想

生徒からの感想では「緊張して丸太を切るのは怖かったです、



丸太を切る作業に挑戦する生徒



県農林大学校の職員より安全装備の説明を受ける生徒たち

意外とうまくできました。林業を知ることができました」「チェーンソーやリース作りでとても楽しく学ばせていただきました」などとありました。

学校・県と連携したことで、生徒たちはチェーンソー体験など、私たちがだけでは出せない迫力ある体験もでき、より充実したと思います。将来、「林業」を選択肢の

1つとして捉えても  
られることを願いま  
す。

## 高校生に向けた 林業教室2

りら創造芸術高等  
学校では、会員の山  
にて自伐林業の話、  
間伐、箸作り、スウ  
エーデンソーチ作り  
等毎年内容を変えて  
実施しています。整  
備された山に触発さ

れるのか、山での仕事に興味を持  
ったのか、予定の時間が過ぎても  
生徒からの質問がたくさん出ます。  
休憩時間にはお餅をスウェーデン  
ソーチの上で焼き、ぜんざい作り。  
この時の会話は高校生との距離を  
縮めてくれます。

## 今後の抱負や課題

今までの活動経験を生かしつつ  
も現状に満足せず、若い会員の意  
見を聞き、高校生の気持ちに寄り  
添った取組を続けていきたい。そ  
して、活動を通して会員間の信頼  
を深め、いつまでも「この会がと



クリスマスリースの作り方の説明を受けながら、取り組む生徒たち

ても居心地がいいのよ」と言っ  
てもらえる会を目指していきたい  
です。

また、数年前から会員のグルー  
プLINEを開設し、連絡や意見  
交換だけでなく、アルバムに活動  
報告を掲載し、欠席した会員にも  
伝えるなど、工夫を重ねています。  
今後活動が増加しても迅速に対応  
できるよう、SNSなど新しいこ  
とにも挑戦し続けていきたいです。

\*まとめ

女性林研部会

会長 原見知子

事

高校生等の林業就業体験等

例

# 仕事としての林業に興味を持ってもらおう 小中学生の林業教室 西井川林業クラブ〔徳島県〕



中学生のプロセッサ、グラブ、バックホウ操作体験

県内有数の林業地域・  
三好市と西井川林業クラブ

三好市は、平成18年3月1

日、徳島県西部の6町村（三野町、池田町、山城町、井川町、東祖谷山村、西祖谷山村）が合併

して誕生し、西は愛媛県、南は高知県、北は香川県に接しているため、古くから四国中央地域の交通の要衝となっています。市町村では四国で最も広い面積を有し、大歩危・小歩危をはじめ、祖谷溪、三嶺、落合集落などの観光拠点数多く、国内外の観光客から大きな注目を集めています。

林業に関しては、森林率90%、人工林率61%の豊富な森林資源から生産される素材生産量は県内一を誇り、県内有数の林業地域となっています。また、令和6年4月には林業従事者を養成する「三好林業アカデミー」が開校する予定です。

昭和31年4月、井川町西井川地域において、「山を緑に・田に水を」を合言葉に有志12名で西井川林業

クラブ（以下、当会）を結成しました。現在の会員は28名で主に農業に携わる者で構成されています。

これまでの主な活動は、地元小中学生への森林環境学習、阪神淡路大震災を契機に整備された「大学の森」の運営管理、交流拠点「林業研修の館」を活用した体験型修学旅行の受け入れなど、青少年の育成や都市と山村の交流に尽力してきました。

## 30年以上の歴史を持つ 小学生の林業教室

西井川小学校が緑の少年隊に認定された平成2年以降、毎年、児童たちに森林環境学習として、林業講話や間伐・枝打ち体験を開催してきました。体験を通して森林



地域の森林やその機能などについてクイズ形式での解説を聴く児童たち

行い、整備しています。  
 去る10月20日(金)、  
 会員12名参加のもと、5、  
 6年生15名を対象に林業  
 教室を開催しました。内  
 容は、森林クイズ、林業  
 (仕事)の話、そして会  
 員所有のヒノキ林での伐  
 採体験です。児童は小学  
 校から現地までは徒歩で  
 来る予定でしたが、あい  
 にく天気予報が下り坂だ  
 ったため、タクシー移動  
 となりました。会場にも

テントを張り雨降り対策を取りま  
 した。  
 まず、県の林業普及指導員に地  
 域の森林やその機能などについて、  
 クイズ形式でわかりやすく解説し  
 てもらいました。当会のもも○  
 ×クイズに加えてもらいましたの  
 で、児童たちは楽しく理解してく  
 れたと思います。  
 次に、地元の三好東部森林組合  
 の職員による林業の話です。初の  
 試みですが、森林環境だけでなく  
 仕事としての林業に少しでも興味  
 を持つてもらおうと、実務に当た

っている職員に来てもらい、地元  
 の林業や最近の林業について話を  
 してもらいました。特に林業機械  
 については、児童たちは興味深く  
 耳を傾けており、林業に対するイ  
 メージが変わったと思う子もいた  
 に違いありません。  
 そして、当会員がメイン講師と  
 なる伐採体験です。児童を4班に  
 分けてそれぞれに会員が付き添い  
 ノコギリで受け口と追い口を入れ  
 て伐採していきます。切りやすい  
 木を選んでいますが、直径20cm  
 のヒノキの伐採は児童にとっては

の働きを学んでもらい、豊かな森  
 を後世に伝える取組を実施してい  
 ます。  
 以前、西井川地域には、児童た  
 ちがノコギリで伐採できるちよう  
 ど良いサイズのスギやヒノキが数  
 多くありましたが、近頃は若齢林  
 が少なくなつたため、なかなか見  
 つかりません。このため、多少太  
 い場合でも、数人がかりで1本を  
 安全に伐倒することになっています。  
 また、児童たちが山に入り活動す  
 る機会が減っていることもあり、  
 安全に考慮し、林業教室の前には  
 現地の草刈り等をこれまで以上に



順番に間伐体験。直径20cmのヒノキに児童たちはひと苦労



ヒノキのいい香りがする林内で枝払い体験



西井川小学校の児童たちと記念撮影

ひと苦勞で、交代でノコギリを入れて切り進めていきます。ノコギリを使い慣れた子、そうでない子とそれぞれいましたが、全員で協力して1本の木を倒した時には歓声が上がりました。更に、自分た

ちのお土産にと、伐採したヒノキを好みの幅に玉切りをしてコースターを作るなど、伐採体験を満喫していました。林内はヒノキのいい香りと楽しそうな声で満ちあふれていました。

全行程が終了し、児童たちが帰路に着くと同時に雨が降り出しました。これまで30年以上開催していますが、天候が一番大事だと改めて認識したところです。

### 林業機械操作 体験に初挑戦！ 中学生の 林業教室

これまで井川中学校の生徒に対して、林業講話をはじめ、「林業研修の館」を活用した新割り体験、木工体験、地元の食材を用いて、自分たちで調理し味わい、

その良さを認識してもらおう味覚体験等を実施してきましたが、ここ数年は新型コロナウイルスの影響を受け、内容を縮小して行ってきました。

令和5年度は、行動制限が緩和されたことから、例年通りの内容が実施できるのですが、中学校の近くで高性能林業機械を用いた森林組合の間伐現場があることを知りました。これまで伐倒体験はあるものの、林業機械操作は未経験です。このため、林業普及指導員、森林組合及び中学校と協議し、林業に興味を持ってもらうために、新たに機械操作体験を加えることにしました。

今年度の内容は林業講話、機械操作体験、木工体験となり、9月25日(月)、会員2名参加のもと、1年生16名を対象にまずは林業講話を行いました。内容は当会の活動紹介、地元の森林林業、森林組合の仕事についてです。この後に行われる機械操作体験に繋がるように、林業普及指導員と森林組合職員の協力を得ながら実施しました。



生徒たちに当会の活動について紹介する林業講話

9月29日(金)には、会員7名参加のもと、同じ1年生16名を対象に、午前は機械操作体験を、午後は木工体験を行いました。機械操作体験では、まず組合の作業班員による伐木のデモンストラクションを見学しました。生徒たちは本格的な林業現場で伐採を見るのは初めてです。直径30cm以上のヒノキが倒れた瞬間、ドスンという地響きを聞き、その迫力に興奮していました。その後、切り株を見ながら、受け口、追い口など、切り方の指導も受けました。

続いて、現場にあるプロセッサ、グラップル、バックホウの操作体



孫のような生徒といっしょにフォトフレーム作り

験です。作業班員の指導のもと、生徒全員が3種類の機械に搭乗し体験していきました。人力では動かない木も機械を使えば簡単に処理することができると実感したようで、生徒たちはおもしろそうに操作をしていました。

指導者の方も丁寧に教えてくれて本当に充実した内容でした。我々会員は、生徒たちの安全管理と補足説明に専念しました。

午後の木工体験は当会員が指導者となります。事前に準備した板

や枝などを用いてフォトフレームを作ります。当会にとって木工は得意分野。ペン立てやネームプレート、額縁などを製作しています。生徒たちは3班に分かれて、会員がそれぞれ持ち寄った道具を使いながら作っていきます。「これどうしたらいいん?」「穴に紐が通らん、どうしよう」などと、孫くらいの生徒たちに言われると張り切ってしまいます。若い世代との触れあいは良いものです。生徒たちは思い思いの絵を描き加えて、世界にひとつだけのフォトフレームを仕上げていきました。

中学校生活の思い出を飾ってくれば幸いです。

### 林業への就業に繋げる 林業教室を

三好市には以前から林業を学べる高校(池田高等学校三好校)があり、林業に就職する生徒を数多く輩出してきました。

そこに加えて前述した「三好林業アカデミー」が開校予定となっており、林業を学べる素晴らしい環境が整備されつつあります。

ここで重要なのが、そこに進学したいと思う生徒をいかに育てていくかです。実際のところ、小学生や中学生の頃から林業に興味を持つ生徒はあまりいないのが現状です。

当会は長く地

元の小中学生に林業教室を開催してきた繋がりがあります。担い手育成の一助になればと、今年度の取組に林業の仕事についての紹介とともに具体的な作業体験を加えました。実施してみた手応えはまだまだわかりませんが、児童も生徒も楽しそうだったのは事実です。こ



出来上がったフォトフレームを持って記念撮影

のような取組が当地だけでなく、市全体に広がることを切に願い、一端を担えるよう、これからも活動を続けていきたいと考えています。

まとめ

西井川林業クラブ事務局

事

高校生等の林業就業体験等

例

# 学校林で林業インターンシップ 初めての伐倒・グラツプル操作体験

## 周桑林業研究グループ「愛媛県」



初体験！ 無事伐倒し、3mの長さで玉切り、造材を行う生徒

### 西条市と 周桑林業研究グループ

西条市は愛媛県の東部に広がる

道前平野に位置しており、市の南部及び西部は、西日本最高峰の

石鎚山（1982m）を主峰とす

る石鎚山系や高縄山系を背景にして、急峻な山岳地帯となっており、森林率70%、人工林率70%であり、このうち約9割が伐期を迎えつつあります。

このような自然豊かな西条市を拠点に活動する周桑林業研究グループ（以下、周桑林研）は、平成21年に市内の2つの林業研究グループが合併して誕生しました。現在、会員は16名で、主に地域の児童を対象にした木工教室、小学生を対象としたしいたけ植菌教室や高校生への林業技術指導などの活動を行っています。

### 地域の課題と林業への 就業意識向上に向けて

他地域と同様に、ここ西条市においても充実した森林資源の活用

が期待されていますが、近年は林業労働力が減少し、後継者の育成は大きな課題となっています。

市内には、創立105年となる愛媛県立西条農業高等学校（以下、西条農業高校）があり、多くの卒業生が地域農業の発展に寄与しているほか、いしづち森林組合をはじめ、市内外の林業事業者等において林業技術者として活躍しています。

同校には、これまでの卒業生がスギやヒノキを植栽し育ててきた学校林が16haあり、そのほとんどが50年生以上となっています。また、同校では令和5年度から環境工学科の2年生を対象に、森林の機能や木材の利用等について学ぶ「森林科学」の授業が開始され、これまで以上に学校林を使って体



ハーベスタシミュレータ操作体験。生徒たちは操作ボタンの多さに苦戦

映像を通して操作しますが、多くの生徒はボタンの多さで苦戦していました。未だ林業はチェーンソーによる伐倒造材のイメージが強いと思いますが、次々に新しい林業機械が出てきており、バーチャル映像上ではありますが、最先端の林業機械を操作し、機械化が進んでいることを生徒たちにも実感してもらえたら幸いです。

②チェーンソーの操作体験  
続いては学校林に移動し、ここからは、当林研会員が主体となって指導を行います。生徒には、安全対策として防護スボンやヘルメット、防振手袋を装備してもらい、チェーンソーの取り扱い方やキックバックなどの注意事項について説明した後、円盤切り体験をしてもらいました。

③伐倒体験とグラップルの操作  
次は、生徒10人を3班に分け、

### 3種類のプログラムで 林業インターンシップ開始!

今回の体験内容は、①ハーベスタシミュレータ操作、②チェーンソーの操作、③伐倒体験・グラップル操作です。

#### ①ハーベスタシミュレータの操作体験

県の林業研究センターの協力を得ながら、伐倒から造材までこなす高性能林業機械のハーベスタをバーチャル



チェーンソーの操作について説明を受ける



まずは円盤切り体験から



初めての伐倒体験に悪戦苦闘しつつ受け口作りを完成



真剣な表情でグラブプル操作

動かしました。生徒全員が重機を実際に操作するのは初めてでしたが、ゲーム感覚で楽しんでいるようでした。

### 林業インターンシップを終えて

実施後、生徒に行ったアンケートからは「もっと木を伐りたい」「楽しかった」という前向きな感想が聞かれる中、「チェーンソーが思っていたより重たかった」「怖かった」「伐倒が難しかった。『離れる』と言われても足がすくんで動けなかった」などの感想もありました。今回の研修を通して、実際に木を伐る経験は生徒にとつて良い経験になったと思います。また、林業に対して興味を持つ生徒も少なからずいたことが大きな収穫だったと思います。

周桑林研会員にも話を聞きました。「初めてチェーンソーを扱ったにもかかわらず、きれいに伐倒できていた。伐倒後の切り口もきれい。若いってすごいなと感心し

それぞれの班に講師を2名ずつつけます。伐倒体験と操作体験に分け、時間毎に交代し、全員が伐倒体験とグラブプルの操作体験を行う運びとなりました。

伐倒体験では、講師指導のもと、受け口と追い口を作って伐倒していきます。今回の実習に使用したヒノキは、約60年生であるため、初心者には大きすぎるかもしれま

せん。伐倒する前は、受け口、追い口について1人1人に丁寧に説明し、伐倒する木がどの方向に倒れたらかかり木にならず、安全に伐倒できそうか、退避場所の確認など生徒に考えさせながら指導を行いました。

ほとんどの生徒が受け口と追い口に作りに悪戦苦闘しますが、無事に伐倒することができました。生

徒が伐倒した際に何本かかかり木になりましたが、会員の迅速な対応もあり生徒全員が安全に伐倒することができました。伐倒した木は、引き続き造材を行います。およそ3mの長さで玉切りを行い、時間が余れば枝払いを行いました。グラブプルの操作体験では、講師指導のもと現地の丸太を積み上げたり、180度旋回させたりと



林業インターンシップを終えた生徒 10名

「思った」の回答でした。研修後、将来「林業」に関わる仕事をしたいと思ったか」に対して10人中7人が「ある程度思った」

「思った」の回答でした。研修後、将来「林業」に関わる仕事をしたいと思ったか」に対して10人中7人が「ある程度思った」

「楽しそうな生徒を見て、直接高校生へ指導できる機会はやりがいがある。林業の魅力を伝えるため、これからもこの林業体験を続けていきたい」などの声がありました。

また、昨年度の事前準備は伐倒エリア内の草刈りのみでした。今回は生徒が安全に伐倒できそうな木を事前に選び、さらに、退避しやすくように木の周りのシダを刈

るなどを行いました。準備の段階から生徒が安全に伐倒体験を行えるよう真剣に考え、当日は安全第一で丁寧に指導をしたことが、生徒も楽しめた一番の要因だと思います。

後継者不足の解消に向けて

西条農業高校の林業インターンシップは数年前から実施しており、近年はこの研修をきっかけに同校から地元森林組合への就職が毎年1人以上上決まっています。今回も研修後のアンケートの集計では、「今回の研修を受講後、将来「林業」に関わる仕事をしたいと思ったか」に対して10人中7人が「ある程度思った」

前と研修後では林業に関心を持つ生徒が少しでも増えたことがわかりました（グラフ1）。

また、研修を終えて「将来どのような仕事に就きたいか」に対し、林業関係（林業会社、森林組合、木材加工・流通会社）を選択した生徒は全体の約46%という結果となりました（グラフ2）。

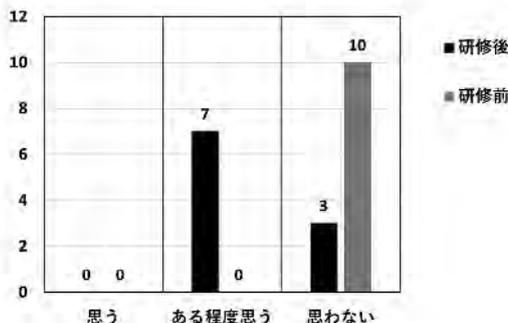
これらは当研修を通して林業の一端である伐倒を体験し、森林や林業について関心を深めることができた結果だと考えます。

### 今後の活動

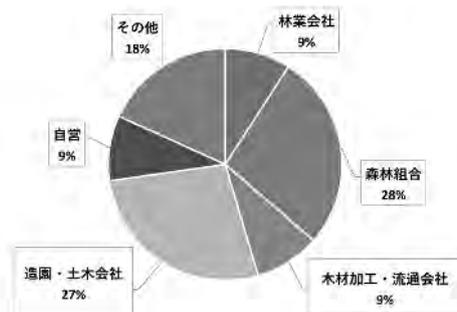
前述のように、周桑林研は地域の児童を対象にした木工教室、小学生を対象とした植菌教室など幅広く活動しています。今後の活動として、これらを継続して木の温もりや特用林産の普及啓発を行っていききたいと思えます。

また、これからも林業インターンシップを通して林業後継者育成のため、同校生徒が今後1人でも多く林業に興味を持ち、林業への就業に繋がってくれることを願っています。

グラフ1 林業に関わる仕事をしたいか



グラフ2 将来どのような仕事につきたいか



\*まとめ  
周桑林業研究グループ事務局  
玉置康文

事

高校生等の林業就業体験等

例

# 林業機械、チェーンソー、木材を学ぶ 林業の仕事体験学習会

## 宇和島地区林業研究グループ連絡協議会「愛媛県」



林業士からチェーンソー操作を教わる生徒

以上の森林が89%を占め、成熟期を迎えた森林がほとんどで、この豊富な森林資源の循環利用を推進することが課題となっています。

また、当地域は少子高齢化が著しく、林業において担い手不足が問題となっており、林業生産活動の継続や地域資源の循環利用を図る上で、林業の担い手確保・育成は、重要な課題であると考えています。

このような地域で、5つの単位林研グループがまとまり、昭和37年に宇和島地区林業研究グループ連絡協議会（以下、協議会）が発足しました。現在の会員は64名で、様々な活動を行っています。



北宇和高校担当教諭、「えひめ愛顔の農林水産人」の山内翔平さんと交えて懇談会

協議会の主な活動として、小中学校児童や生徒を対象にしたたいげ植菌教室や料理教室、またエリートツリー生育調査、県外視察研修、炭焼き技術伝承研修やユーカーリ生育調査、さらにはICT技術研修など、関係機関と連携しながら進めています。また、今回紹

### 地域と協議会の概要

宇和島地域は、森林面積約

6万3000ha、森林率77%で、ヒノキの主産地となっています。

森林資源の構成を見ると、9歳級



林業普及指導員から説明を聞く生徒たち



林業の仕事の魅力について語る山内翔平さん

## どう発信するか 林業の仕事と魅力

介する高校生の事業は、地元のア  
媛県立北宇和高等学校（以下、北  
宇和高校）生徒に、林業の仕事、  
森林の働きなど体験を交えた学習  
会（以下、学習会）を開催し、担  
い手の確保・育成に取り組んでい  
ます。

今年度は、南予森林組合（以下、  
組合）の搬出間伐現場においての  
開催となりましたが、まず学習会  
を開催するにあたり、県の新規事  
業である「えひめ農林水産業魅力

発信事業 次世代人材掘り起こし  
事業」を活用し、林業の魅力や仕  
事内容の発信・進め方などについ  
て、高校の教諭と懇談を行いました  
。また、今回の学習会で講話を  
お願いする山内翔平さん（株）日吉  
農林公社）にも同席してもらいま  
した。山内さんは、愛媛県で頑張  
っている林業分野の「えひめ愛顔  
の農林水産人」の認定を受けてい  
ます。

教諭からは、「我々も林業の仕  
事は、ほとんど知らず、こういう  
学習会などを通じて理解してきた。  
大変ありがたい研修です。また大

変な仕事であるが、必要な産業で  
あり、若い生徒たちが就業してく  
れるよう努力したい」などの意見  
が出ました。また、山内さんは、「愛  
媛の農林水産業は、稼げる かつ  
こいい 感動を楽しめる」新しい  
3Kであり、イメージの悪かった  
“きつい 汚い 危険”の3Kを  
払拭したい。学習会では林業の魅  
力をPRしていきたい」と話して  
くれました。

搬出間伐現場で  
林業の仕事体験開始！

10月17日（火）、北宇和郡鬼北

町北川の私有林において、学習会  
を開催。協議会からは7名が出席  
し指導等を行いました。

初めに県の林業普及指導員より  
木材の流通、高性能林業機械の種  
類などの説明があり、その後、山  
内さんから、林業の仕事について  
自分の体験談も交えながら、様々  
な角度からその魅力を語ってもら  
いました。

次に会員と組合の林業士が、搬  
出間伐の作業方法の説明や高性能  
林業機械を使つての作業、労働安  
全についての説明と実演を行いま  
した。

チェーンソー操作体験では、生  
徒たちは防護服・防護スボンなど  
を着用して挑戦。会員からは生徒  
の身振りに対し、「大丈夫かあ」  
という声も聞こえてきましたが、  
キックバックに注意すること、無  
理に力を入れず、機械の重さで切  
っていくように、など適切な指導  
を行いました。

林業機械操作では、ハーベスタ、  
グラブの体験です。生徒たち  
は、ゲーム感覚で楽しんで機械を  
操作していました。意外と女子生  
徒が積極的で、「体験したい人？」



会員指導によるチェーンソー操作体験

と声をかけると真っ先に女子生徒が手を上げ、林業士の方もびっくりした様子でした。

次に材の測り方や柱材の採り方、節などについての説明です。生徒に「ここに立っている1本の木、いくらだと思えますか？」と質問すると、「1万円」「百万円」「10万円」とそれぞれの回答があり、感覚的にわかっていない様子でした。また、材積は末口二乗法で算出することや、直径は2cm節約とすること、節が柱の表面に出てこないようにするためには、



真剣な眼差しで操作をする女子生徒

枝打ち作業が必要であることなどを説明しました。

今までは、チェーンソーや林業機械の操作体験で終わっていましたが、今回から、優良材生産のための施業、材積の算出方法、木材価値や流通面など、木材の現状を知ってもらうことを新たな教育項目としました。

### 学習会の振り返り

今回の学習会を通じて、生徒や林研会員、林業士の感想を聞いてみました。

生徒は、「機械を使って木材を搬出し、それが家の柱とかになるんだなど実感した」「チェーンソーは難しかったけど、面白かった」



体験した生徒に話を聞く

北宇和高校に対しての林業の仕事体験学習会は、数年前から実施しています。しかし、毎年数名の生徒が林業に興味を示してくれますが、就業には至っていません。教諭の話では、友人同士で給料や会社の状況などを話し

### 来たれ生徒よ、 林業に！ 周囲の理解も 深めたい

林研会員からは、「林業の『グ』の字も知らない生徒たちだから、林業は楽しい仕事なんだ、重要な仕事なんだということをわからせるのが一番ではないかと思う。そうした機会を今後も作っていききたい」、また「チェーンソーを操作

させるのは危険すぎるような気がする。間違いがあれば大変なケガとなる。保障などもしつかり準備して対応する必要がある」など慎重な意見も出ていました。組合の林業士は、「生徒たちに、林業の仕事を知ってもらうことは、ありがたいことだ。林業の仕事は、なぜ必要なのか、危険な仕事をしてまでもやらなければならぬのはなぜか、を教えることが重要かなと思う」と今後に関心する意見をいただきました。

北宇和高校に対しての林業の仕事体験学習会は、数年前から実施しています。しかし、毎年数名の生徒が林業に興味を示してくれますが、就業には至っていません。教諭の話では、友人同士で給料や会社の状況などを話し



北宇和高校の生徒と林業士の集合写真

体験をしていただく機会を作ることでないかと感じました。

当地域には、「南予森林アカデミー」が開校しています。林業事業体の意向に沿ったカリキュラムを作成し、1年間を通じて林業の基礎や労働安全関係、資格取得、チェーンソーや林業機械の操作などに力を入れ取り組んでいます。

今後とも学校教育への林業体験実習時間を確保していくために努力し、1人でも多くの若い生徒が林業に従事してくれるよう頑張りたいと思います。また、興味がある生徒には「南予森林アカデミー」に入校してもらおうよう積極的にPRをしていきたいと考えています。

#### \*まとめ

宇和島地区林業研究グループ  
連絡協議会 事務局

事

高校生等の林業就業体験等

例

# 地域の高校生と担い手を繋ぐ！ 林業機械操作研修と間伐研修

かみましき  
上益城地区林業研究グループ連絡協議会「熊本県」



間伐研修後の笑顔の集合写真

林面積、林業生産額ともに県内3位の山都町までを範囲としています。

上益城地区林業研究グループ連絡協議会（以下、協議会）は、昭和43年に設立され、現在は会員17名の御船町林業研究グループ（以下、林研グループ）のみで構成されています。林研グループの設立も昭和50年ととても古く、御船町だけでなく、山都町や熊本市在住の方もいます。どこの地域でも同じ課題を抱えているものと思いますが、熊本県でも担い手不足、担い手の高齢化は深刻な問題です。しかし、当林研グループの平均年齢は38歳、17名中8名が30代以下で会長も31歳という、これから伸び盛りのグループです。

地元高校を対象にした  
林業機械研修と間伐研修

上益城地区で最も林業が盛んな山都町<sup>やましろ</sup>に、今回ご紹介する事業の対象である熊本県立矢部高等学校（以下、矢部高校）があります。

林業単独の科である林業科学科を有する矢部高校は、ここ数年、同科の生徒数が増加しており、令和5年度の入学人数は普通科を超える18名となりました。

協議会では、地元の高校生に授業以外に林業に関わる時間を少しでも持つてほしい、林業を「仕事」としてイメージしてほしいという思いで、矢部高校の1年生と2年生を対象とした林業機械操作研修と間伐研修を実施しています。

例年、年度当初に矢部高校の先生と協議会の事務局員で日程や内容の打ち合わせを行います。林業

若手が活躍する協議会

上益城地区は熊本県の中央部に

位置し、緑川が中心を流れる5町からなる地域で、熊本市に隣接する森林面積ゼロの嘉島町から、森



グラップルを操作する生徒

ランで、毎年お願しているの  
で教え方もとても慣れておられます。お1人は矢部高校の卒業生のお父さんで、生徒たちは「○○のおじちゃん!」と、地元ならではの空気が感じます。

さて、研修に入り、マンツーマンで操作説明を受け、実際に操作を開始します。プロセッサから研修を始めた班は皆、操作に四苦八苦。木材を掴む前のヘッドがぶらぶらんと大きく揺れます。なんとか木材を掴んで玉切り、元の位置にヘッドを戻すまで10分近くかかりました。グラップル操作をしてきた班はさすが、先ほどよりはスムーズにプロセッサを操作していきます。ある生徒は「これ難しい! でもゲームみたいで面白い!」と話していました。



ゲームをするようにフォワーダを操作中?

機械操作研修は地元緑川森林組合、間伐研修は林研グループ会員が講師を務め、ここ数年は会員の國武林業のメンバーが担当しています。今回もピンク色の髪の協議会代表とヒョウ柄の髪(ー)のメンバー、金髪のメンバーが生徒たちを迎えました。

### 凍える寒さのグラップル、プロセッサ、フォワーダ操作研修

11月7日(火)、矢部高校の演習林で1年生を対象に林業機械操

作研修を実施しました。この演習林は北向き斜面であることから、九州の11月であるにもかかわらず、毎年寒さとの闘いとなります。研修は、グラップル、プロセッサ、フォワーダの3台を準備し、3班に分かれて班ごとに操作、時間になったら交代する、という流れで行います。昨年までは多くても10名程度の生徒数でしたので、1班3名程度でしたが、今回はおそらく過去最多の16名。1班5〜6名で時間内に終わるかどうかが一番の心配事でした。操作講師は

森林組合のベテランで、毎年お願しているの  
で教え方もとても慣れておられます。お1人は矢部高校の卒業生のお父さんで、生徒たちは「○○のおじちゃん!」と、地元ならではの空気が感じます。



プロセッサ研修。マンツーマンで説明を受けるも生徒は四苦八苦



間伐研修の前の講義の様子

た2年生を対象とした間伐研修は先ほど少し触れたように、カラフルな髪にカラフルな服装の若い講師陣3名に進めてもらいました。國武林業は特に安全対策にとっても注力されている事業体で、こちらもその信頼があり、かつ毎年面白い光景が見られることから楽しい研修の1つです。さらに、講師の1人は矢部高校出身、これも地元研修ならではのことで矢部高校の先生も嬉しそうでした。

「山から命ばもらつとるて、感謝して伐らん。ありがとて、痛くなかごつ伐るけんねて、そういう気持ちで1本1本伐つとる」(訳：山から命をもらつてっていると、感謝して伐らないといけない。ありがとて、痛くないように伐つていこうと、そういう気持ちで伐っている)と、國武代表の熱い想いを伝える講義から始まり、間伐の方法や伐倒の基礎、チェーンソーの扱い方などの説明後、3班に分かれて簡易伐倒器具での練習を始めました。

目標は、①水平切り、②斜め切り、③正確な受け口・追い口をマスターすることです。水平切りはなかなか思うようにいかず、何度も練習を重ねます。切った後に水平器を置いて確認したり、チェーンソーの上に水平器を乗せて、水平の感覚を身に付け、うまく水平に切れた時には生徒と講

師の歓声が上がっていました。午後の受け口・追い口の練習を終えると、講師による実際の模擬伐倒です。正しい受け口を作るのが難しいと体験したからこそ、皆真剣な眼差しで見つめます。そして、メイイベント(?)の「チエンブレスHOW」です。これはここ数年開催されているもので、安全作業のためにチエンブレイ



水平切りを熱心に教える講師

キの大きさを絶対に忘れないでほしいという國武代表の想いが込められています。内容は、山林内に響く代表お気に入りの音楽に合わせて、かつこ良くチエンブレイキをかける、というものです。文字では伝わりませんね…。國武代表曰く「地獄のような時間」を過ごすことで、チエンブレイキのことを頭に焼き付けてほしいとのこと。そして、恥をかけ！というエール。クラスメイ

トの前で、柄にもなくノリノリの音楽にのっ



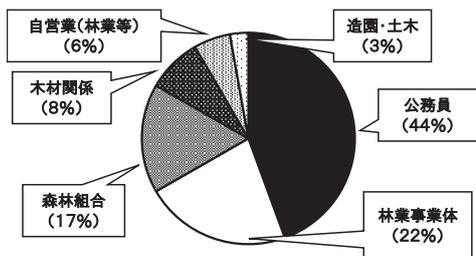
簡易伐倒器具を用いての受け口・追い口切り



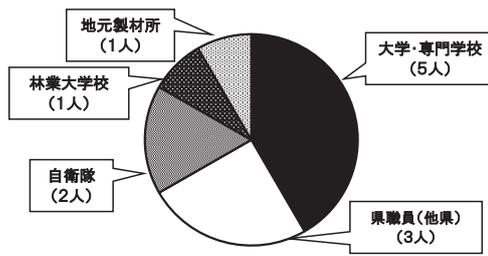
メインイベント(?)「チェンブレ SHOW」に挑む生徒

矢部高校の令和4年度卒業生の進路は、大学や専門学校が最多で、林業関係への就職・進学は12名中2名という状況です(グラフ2)。ここ数年、同じような状況で、林業への興味が

グラフ1 就きたい職業(令和5年度)



グラフ2 令和4年度卒業生の進路



湧くというところまではいくものの、就業に繋がるまでは至っていない状況です。研修中に、2年生に対して、進路は決めているの?と聞いたところ、ほとんどの生徒がまだ決めていないようでした。2年生の後半から3年生の前半にかけて進路を決定する頃に、あと一押しがあるといいのかなと考えています。

\*まとめ

上益城地区林業研究グループ連絡協議会事務局 杉本加奈子

てかっこ良くキメるといのは、想像以上に恥ずかしい、まさに「地獄の時間」。でもやり終えた後の、生徒たちの爽やかな表情、これを乗り越えたらこれから多少緊張する舞台もこなせるようになるよ!という熱いエールです。

最後は、簡易伐倒器具を用いて、グループごとに1人ずつ、受け口の下切り、斜め切り、追い口を入れる作業の速さ、正確性などを競います。実際の競技で使われる点

**研修を終えて  
— 高校生の意識は  
変わったか? —**

研修後にはアンケートを実施しており、「研修前に、林業に関わる仕事をしたいと思っていましたか?」という質問には、25名中11名が「いいえ」と答えました。その11名に対する、「今回の研修後に、将来林業に関わる仕事をしたいと思いませんか?」という質問には、「思った、ある程度思った」が8名となり、「就きたい職業は?」という質問には、公務員に次いで林業事業体と森林組合が挙がっており(グラフ1)、就業意識に関しては一定の効果があったと感じました。

**今後の活動**

森林経営管理制度による森林整備も着々と進んでいる当地区では、担い手の確保は喫緊の課題です。矢部高校の入学者数も増加しているこの好機に、今後も就業に繋がるような魅力的な研修を実施していきたいと考えています。また、林研グループも着々と若手が増え、新たに女性の入会もありそうで新しい風が吹いています。協議会としても、地域の林業の活性化に向けてこれからも積極的に活動を進めていきます。

事

高校生等の林業就業体験等

例

# 先輩方へ続け！ 5日間の就業体験 ドローン、機械操作、造林、間伐、視察

## 鹿児島県林業研究グループ連絡協議会「鹿児島県」



シカによる新植苗木の食害を防ぐために  
防護柵（シカネット）を丁寧に設置した

鹿児島県林業研究グループ連絡協議会（以下、県林研）では、森林・林業・木材産業への関心を醸成し、将来的な林業への就業促進を図ることを目的として、毎年、林科系高校生へのインターンシップ（①）

林業研修・②事業体での就業体験・

③現場視察研修）を実施しています。今年度も県立伊佐農林高等学校（以下、伊佐農林高校）農林技術科2年生の林業専攻の生徒を対象に、10月16日（月）～20日（金）まで5日間にわたり行った内容を紹介します。

### 今年度対象は2名の精鋭

伊佐農林高校は「農林技術科」と「生活情報科」の2学科があり、2年生に進級する際にそれぞれ専門コースを選択します。さらに、「農林技術科」は園芸専攻・林業専攻・大家畜専攻・中小家畜専攻・食品加工専攻の5つのコースから選択することができます。今年度の同科2年生は13名だったため各専攻とも少人数で、林業専攻の2

名が特別少ないわけではありませんが、昨今の少子化を感じています。

### 初日、ドローン測量や薪割り体験

初日の午前中は「ICT等の新技術紹介」として、鹿児島県森林組合連合会の森林保全部長による「ドローンによる測量実習」と題した座学で、様々な森林の測量方法やドローンを活用した今後の可能性について学びました。

受講後は実際にドローンを操作しながら、撮影↓画像解析↓図面化といった測量の流れを確認しました。座学の際は、少し難しい用語や内容もあり戸惑った様子も見受けられた生徒たちでしたが、校庭でのドローン操作時は、現代っ



伊佐森林組合での薪割り・薪積み体験。黙々と作業をこなす生徒たち



皆伐現場でのプロセッサ操作体験。指示を受けながら落ち着いて操作していた



ディブルを使ってコンテナ苗の植栽。石や木の根の負荷などに気を配りながら作業する

子らしく、初めてにもかかわらず  
すぐに対応していました。

午後からは1箇所目の就業体験  
受入事業体である伊佐森林組合  
(以下、組合) に向かい、業務課  
長による組合概要及び敷地内での  
作業説明がありました。

同組合は、県内森林組合で唯一  
の本格的な木炭生産を行っており、  
敷地内に現在7基の炭焼き窯を保  
有し、カシを材料に良質な炭を年  
間約12万4000kg生産。主に志  
布志市や枕崎市といった県内の食

品工場などが納品先で、年々需要  
が増えているとのことだ。

まずは、木炭生産に必要な薪割  
り・薪積みです。学校にも炭焼き  
窯があるため、生徒たちは薪割り  
機を使用した作業には慣れている  
ようでしたが、2名でコンテナい  
っぱいの薪を割るのは低姿勢での  
作業でもあり、大変そうでした。  
途中、たまたま割った薪からたく  
さんのアリが出てきた時には「う  
わっ」と声が出ていましたが、黙々  
と作業をこなし、割った薪がどん

どん積み重なって終了時刻にはコ  
ンテナの底が見えていました。

## 2日目、 皆伐現場で 機械操作に挑戦

午前中は前日の薪割りの続きと、  
組合敷地内でグラップルとフォー  
クリフトの操作実習をしました。

午後からは組合の現場である伊  
佐市有林の皆伐現場に移動してフ  
ォワーダやプロセッサといった高  
性能林業機械の操作体験。生徒た

ちは、初めは緊張していたようで  
したが、指示に従いながら落ち着  
いて操作することができました。

## 3日目、 造林作業

3日目から2箇所目の就業体験  
受入事業体である伊佐愛林有限会  
社(以下、伊佐愛林)での就業体  
験が始まりました。

常務から会社概要や業務の説明  
を受けた後、早速、シカ被防護  
柵(シカネット)の設置をするた

め現場へ。シカによる新植苗木の食害を防ぐためには防護柵が不可欠だということを理解した上で、設置方法の説明を聞きながら丁寧に作業を進めました。

午後からは、コンテナ苗の植栽実習です。ダブルという専用の器具を使って地面に穴を掘り、苗を植えていく作業は、傾斜地や地面に石や木の根があると負荷がかかるため、要領良く作業する必要があります。

#### 4日目、 間伐・下刈り作業

伊佐愛林での2日目は、間伐作業が中心でした。チェーンソーを使用した伐倒作業では、木を倒す方向を決めたら、調整しながら受け口を作り、反対側から追い口を入れて、最後にくさびを打ち込んで安全に倒しました。

その後は、プロセッサとグラブの操作実習と下刈り作業です。2日前に組合で操作体験をしていたおかげで、現場の様子は違いましたが、生徒たちは比較的スムーズに操作できたようでした。

下刈り作業については、刈払機



刈払機取扱いの指導を受け、下刈りに挑戦



伐倒体験。手順を踏み、慎重に安全に

の取扱いに注意した作業の仕方を教えてもらっていました。

今年度は事業対象者が2名だったこともあり、2事業体とも現場での機械操作に携わる時間は例年より多かったです。ですが、事業終了後のアンケートには「もっと機械操作の内容を増やして欲しい」との要望もあり、生徒たちの意欲的な姿勢が見られました。

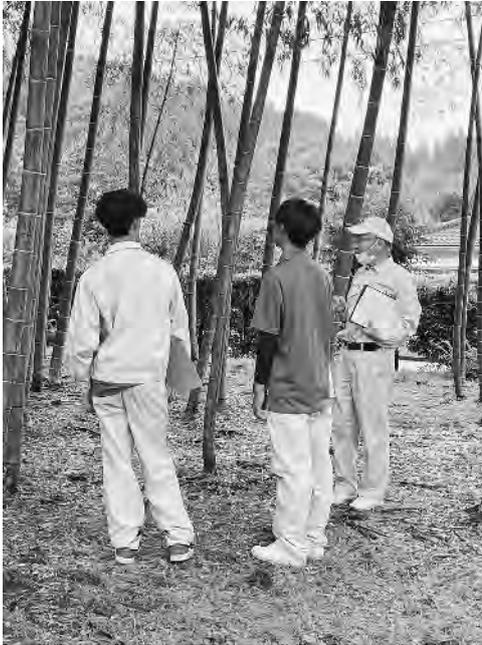
#### 最終日、 3箇所の 現場視察研修

最終日は地域林業の状況を知るとともに、林業就業への参考にしようとする目的とした現場視察研修

です。今年度は学校側の事前要望も参考に、県林務職員の業務内容のほか、木材市場、試験研究機関の業務及び研究内容について3箇所を視察しました。

最初は学校から1時間ほどの距離に位置する国道沿いの治山現場です。現場では県北薩地域振興局の森林土木係で伊佐農林高校の卒業生でもある県職員の方々が対応してくれました。

治山事業の主な工法や現地の工事概要のほか、県職員受験のために準備したこと等のアドバイスや励ましの言葉をもらいました。「学校の授業では、植栽・保育・間伐等の森林整備事業についてはある程度習うが、治山事業についてはほとんど勉強する機会がなく、覚えることが多い。けれども山地災害が起きないように、また、被災現場を早期復旧し人々の暮らしを守る大切な仕事であるためやりがいがある」とのこと。先輩方の話を、2人は真剣な顔で聞いていました。次は、北薩木材流通センター（以下、同センター）です。同センターは北薩森林組合の原木市場で、センター長が概要説明や市場の役



森林技術総合センター場内見学で総括林業専門普及指導員の説明を聞く



治山現場を見学し、主な工法や現地の工事概要などを学んだ

割や相場表の見方などについて丁寧に教えてくれました。原木選別機見学では、モニターと流れてくる丸太を交互に目視で判断し、瞬時に選別するという気の抜けない

作業工程の説明を受けました。最後の県森林技術総合センターで対応してくれたのは総括林業専門普及指導員（以下、総括）です。最初に組織概要と業務内容について

て説明を受けた後、森林環境部や資源活用部の各研究室を訪問し、現在取り組んでいる様々な技術開発のための研究内容について紹介してもらいました。

場内見学では、試験木の相違点や竹の見方・見分け方など、クイズや小ネタを交えて解説してもらい、あっという間に広い場内を一

周しました。「林業と一口に言っても事業体等での現場や行政での仕事などいろいろな形があるので、今回の研修が進路決定の参考になれば嬉しく思う」と総括から言葉をかけられました。

### 5日間の事業を終えて

生徒たちへのアンケートでは林業就業に対して、「林業という仕事内容について、様々な働き方があることを理解できた」「資格取得の方法について知りたい」など前向きな回答が得られました。限られた予算内で少しでも林業についての情報提供ができたのであれば何よりです。

今回お世話になった事業体や関係者のほか、伊佐農林高校卒業の多くの先輩たちが温かく迎えてくれると思いますので、生徒たちには安心して林業を視野にいれた将来の選択をしてもらいたいと思います。

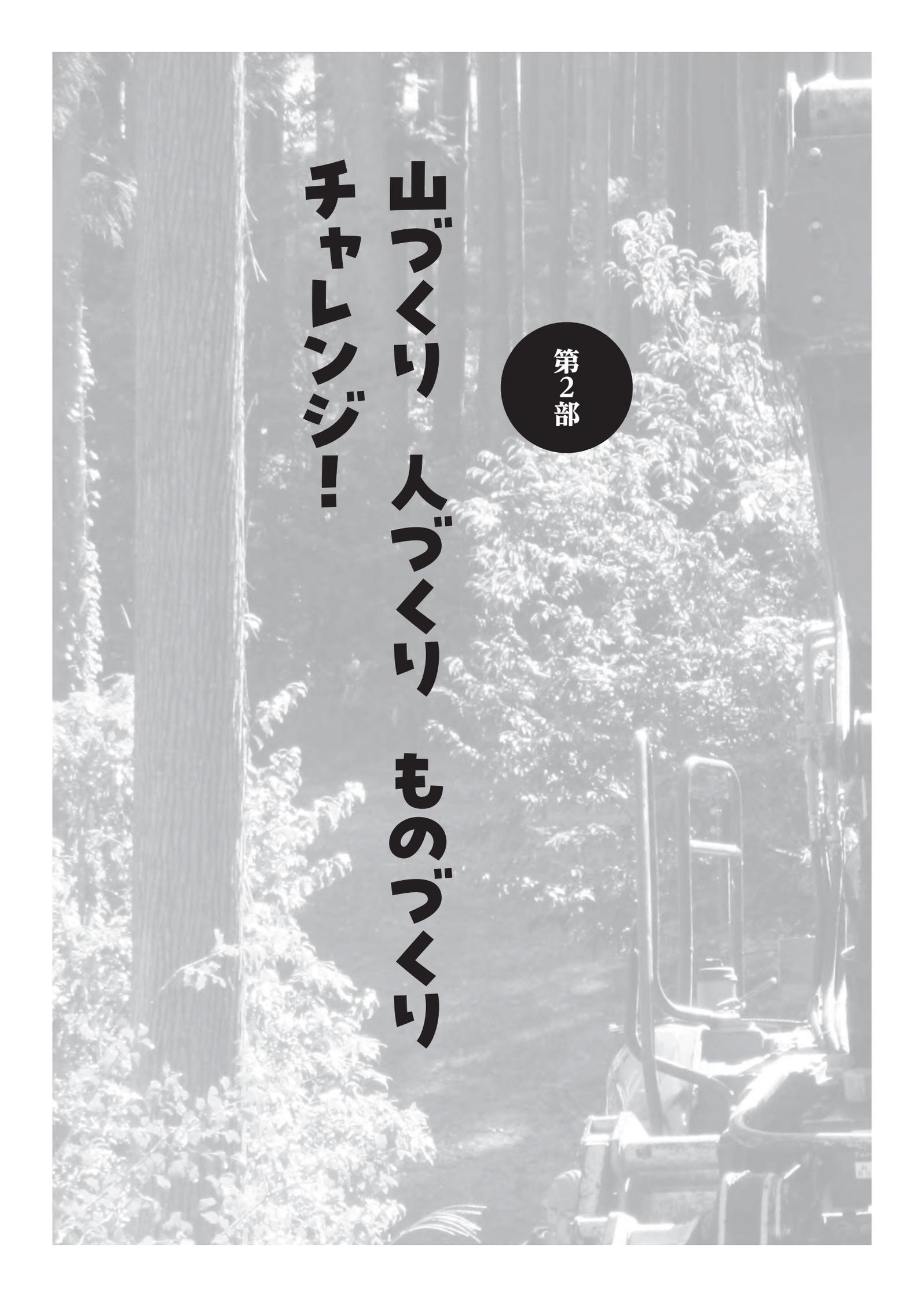
\*まとめ

鹿児島県林業研究グループ  
連絡協議会 事務局

参考：伊佐農林高等学校林業専攻生の進路先（過去5年）

区分	H30	R1	R2	R3	R4	計 (人)	割合 (%)
公務員	0	1	0	0	1	2	7
森林組合・林業事業体	1	1	0	1	1	4	14
建築・工業系企業	2	4	0	2	0	8	28
農業・農業系企業	1	0	0	0	0	1	3
大学・専門学校等進学	3	0	4	2	5	14	48
計(人)	7	6	4	5	7	29	100





第2部

山づくり  
人づくり  
ものづくり  
チャレンジ!

事

私たちのチャレンジ!

例

# 大洲産原木シイタケの食育活動

おおよそ  
大洲市女性林業研究グループ「愛媛県」

女性も林業の分野で活躍したい

私たちが住む愛媛県大洲市は「伊予の小京都」と呼ばれ、昔ながらの街並みと美しい田園風景や山々が特徴です。市の中心部を清

流「じしかわ 脈川」が流れており、歴史を

感じさせる情緒あふれる名所の

数々が今も息づいています。

この素晴らしい景観が整った当地域では、昔から林業が盛んに行われてきました。その中で女性も

林業の分野で活躍できる

場所が作れないかと考

ていたおり、県下各地に

女性のみで組織された林業研究グループがあることを知り、大洲市女性林



郷土料理の「大洲いもたき」づくりで食育活動



地元で愛され続ける「大洲いもたき」は、あたたかく優しい味わい



女性からの視点で活動を進める  
大洲市女性林業研究グループ

業研究グループを作りました。

楽しく・おいしく  
伝統を継承する料理教室

私たちのグループでは、原木シ



毎年行う小学生のシイタケの植菌体験では、会員が指導を行う

イタケの生産振興、需要拡大に貢献するため、シイタケの「生産」から「食」までの一連の流れに沿った森林環境教育プログラムを実施しています。小学生を対象に、地元の特用林産物である「乾シイタケ」の生産の工程を学ぶことを目的に植菌体験をしています。植菌後は、2年後に収穫できるシイタケを楽しみに、水やりを定期的に行い、ホダ木の管理をしてもらっています。

また、小学生の親子料理教室も毎年行っており、郷土料理の「大洲いもたき」づくりを題材に「大洲産原木乾シイタケ」をふんだんに使った料理を作ります。

乾シイタケは、いもたきには必ず必要な食材です。里芋の収穫時期になると、乾シイタケでとった甘めの出汁に里芋・戻したシイタケ・鶏肉・油揚げ・こんにゃくなどをふんだんに入れて作ります。各家庭で少しずつ味が異なり、客人に振る舞う料理

としても定番です。親子で料理を作る機会が近年減っている中で、地元の郷土料理のいもたきを通じて親子で作る楽しさを経験できる料理教室は好評です。

この事業は、約20年前より毎年続けていますが、大洲市女性林業研究グループが関わって10年が経過します。今年も100

名程度の親子にご参加いただき、盛大に開催されました。今後も活動を継続し、愛媛県内で1番の生産量を誇る大洲市特産品「原木乾シイタケ」を全国へ発信し、老若男女問わず多くの方々に美味しく食べてほしいと思っています。

「美味しい・旨味たっぷり」の原木乾シイタケ・乾シイタケパウダー(粉末)は、地元の「大洲市森林組合」、

「大洲まちの駅あさもや」、「大洲市道の駅清流の里ひじかわ」などで販売していますので、こちらもご賞味いただければ幸いです。ご家庭やお土産でも喜ばれること間違いなしです。

### 大洲で愛される「いもたき」

また、先に述べた「大洲いもたき」は日本三大芋煮に選ばれ、郷土料理としてだけでなく、河川敷で鍋を囲み、美味しい料理に舌鼓を打ちながら、お互いの交流の場として、大洲の慣例行事のひとつとなっています。肱川の恵みが



「乾シイタケパウダー(粉末)」は戻す手間がかからず、煮物・みそ汁・お好み焼き・卵焼きなどに使えて手軽



県内1位の生産量を誇る大洲市特産品「原木乾シイタケ」を全国へ発信したい

もたらした大洲産の里芋は、ほくほくとしていて滑らかな舌触りが特徴的です。かつて「お籠もり」と呼ばれる慣習として大洲の人々に親しまれ、今も愛され続けるいもたきは、あたたかく優しい味わいです。

肱川の河川敷で行われる「大洲いもたき」は、毎年9月上旬から10月中旬までの間、開催しております。ぜひ、愛媛県大洲市へ来ていただき美味をご堪能ください。

\*まとめ

大洲市女性林業研究グループ  
会長 上野マリエ

事

私たちのチャレンジ!

例

# 百万ドルの森に夢をこめて

## 若桜町林業研究会「鳥取県」

### 優良材「若桜スギ」の産地

「みどり」と清流のまち」若桜町は、東は中国地方2番目の高峰・氷ノ山、西には東山、北には扇ノ山と1300m以上の中国山地の

山々にすり鉢のごとく四方が山に囲まれています。

総面積の94%は山林で覆われ、

成熟した若桜スギは優良材として信頼を集めてきた歴史があります。多雪地域に位置するため、積雪を考慮した植栽、造林、保育、伐倒、

搬出、木材加工、工務店建築等の技術など、優れた技術が息づいています。

昭和51年3月に若桜町林業研究会が発会してから、今年で46年を迎えました。現在、40歳代から90歳代の25名が所

属し、70歳代が主となっています。ここまで引率、先導していただいた大先輩に心から感謝しています。



銘木林と「百万ドルの森」標柱を再建立



銘木林は「0.5ha以上を有し、伝統的かつ町独自の施業形態を持つ貴重な森林」を当会で選定し、若桜町が指定



当会のメンバー。「生涯現役でがんばるぞ」を第一に活動中

## 銘木林3カ所と「百万ドルの森」を設定

若桜町には、銘木林が3カ所あります。伝統的な技術で育てられたスギやヒノキを対象に当会で選定し、平成6年10月に町が指定しました。平成7年5月には表示板を設置し、現在は子どもたちの学習の場や視察・交流に利用しています。

また、平成8年11月には「百万ドルの森」設定と林業研究会20周年記念植樹・標柱建立に挑戦し、緑化推進功労者として内閣総理大臣賞受賞の栄に浴す快挙となります。



若桜町長と当会との意見交換会

した。「百万ドルの森」は、当時70年生だったスギの試験林（糸白見地区1・5ha）に設定したものです。130年生になれば約1億円以上の森になるという試算をもとに、夢をこめて名付けました。現在は96年生になり、当時より評価は下がるかもしれませんが、標柱を立てたことで「若桜町にも先人から受け継いだ見事な森が数多く残っていることを知ることができた」「優れた森や木を育てる機



町立若桜学園との森林学習を毎年実施している（氷ノ山登山）

運が高まった」「夢を持った」林業に取り組む人が増えた」という声を聞くことができます。

平成23年3月には、老朽化した標柱の再建と記念植樹に取り組みました。そして令和2年11月には、銘木林3カ所と「百万ドルの森」の表示板を新しく標柱型に替えしました。森林所有者の方に再度自分の山に目を向けてもらおうきっかけになればと、努力を続けています。

## 会報「林研だより」を45年間全自治会に配布し全戸に回覧

「林研だより」は、会員や町・県・森林組合などからの寄稿文をはじめ、当会の活動状況、森林を取り



昭和52年から発行する会報「林研だより」は若桜林研の歴史書でもある

巻くニュース等を掲載した会報です。昭和52年5月に第1号を発刊し、今年で41号を数えます。町民へ正しく林業の現状を発信していくため、これまで町内全自治会に配布し、全戸回覧してきました。今後も情報の充実に取り組んで参ります。

若桜町林業研究会は、これからも各種研修、講演会、交流会、町立若桜学園（小中一貫校）への協働活動、地域への林業を取り巻く情報の提供、若手会員の加入促進に一丸となつてがんばりたいと考えています。

\*まとめ

若桜町林業研究会  
会長 伊井野政文

事

私たちのチャレンジ！

例



ハランを使用したフラワーアレンジメント

私たちが活動している長崎県東彼杵郡川棚町・波佐見町は、長崎県のほぼ中央に位置しています。地域の主な産業は農業ですが、波佐見町は400年の伝統を持つ

# 増収を目指して！ ハラン栽培の難題解決

とうひ  
東彼林業研究会「長崎県」

## 複合経営による ハランの林間栽培

「波佐見焼」が有名なやきもの町でもあります。東彼林業研究会ではスギ・ヒノキの長伐期施業による大径木生産を目標とし、短期収入を得ることを目的に、林間栽培によるハランや原木シイタケの生産を行っています。

東彼林業研究会は昭和59年に発足し、現在は31〜93歳までの30名で活動しています。設立当初はキハダやオウレン等の薬草栽培を試みましたが、気候など

の影響から思ったような成果を出すことができない中、全国林業改良普及協会発

の影響から思ったような成果を出すことができない中、全国林業改良普及協会発



ハランを手作業で丁寧に収穫する会員

## 東彼林業研究会共同ハラン場 生涯現役!!



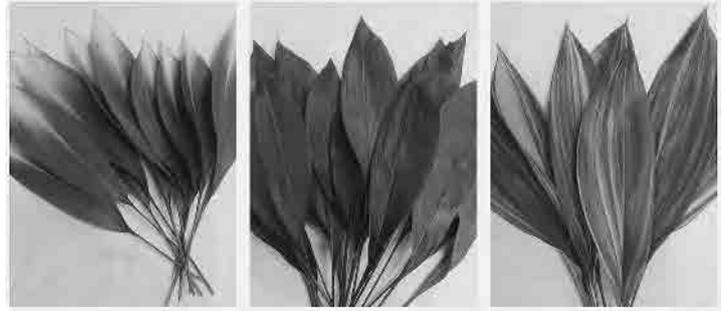
「生涯現役」をモットーに、会員は笑顔あふれる活動を行っています

行月刊誌「林業新知識」でハラン生産について取り上げられていたことをきっかけに取り組んだ経緯があります。

## 解決 シマハラン「青葉化」の

私たちが栽培しているハランは、アオ・シマ・アサヒの3種類であり、主に生け花やフラワーアレンジメントで使われます。また、抗菌・殺菌成分を含むことから料理の装飾や包み物など、さまざまな用途で活用されます。

3種類のハランの中で、花卉市場で最も高値で取り引きされる



左から、アサヒハラン、アオハラン、シマハラン

のが縞の斑入りのシマハランです。しかし、長く生産を続ける過程で斑入りの葉がなくなる「青葉化」の問題に直面しており、シマハラン出荷は全体の15%にとどまっています。長年その対策を検討していましたが、この度、長崎県農林技術開発センターとの研究協力によって、同じ株から発生すると考えられていたシマハランとアオハランは別個体であることが判明しました。「青葉化」の原因は、シマハランの親から発生した種子株のうち、斑入りになる割合が7%程度と低く、ほとんどがアオハランになっていることがわ



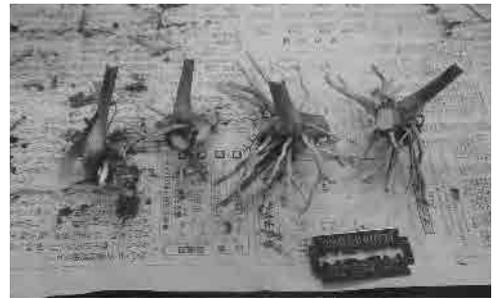
長崎県農林技術開発センターの研究員を招いた研修会で新技術「1節挿し」を習得

かりました。そのため、単価の高いシマハランを優先的に採取した結果、シマハランの植え付け個所でもアオハランの発生が増えたものでした。

そこで、シマハランの新しい増



植え付けから半年後のシマハラン。特徴である縞の斑もはっきり出現しています



「1節挿し」ではハランを地下茎の節ごとに刻み、植え付けを行って芽や根を発生させます

殖技術として、葉の付け根の節ごとにハランを切り、芽を出させる「1節挿し」によるクローン増殖方法が開発されました。これからは会員が増殖技術研修会を通して習得した「1節挿し」でシマハランを増やし、2026年頃にはシマハランの出荷量を現在の2倍、60万円以上の収益増を目指します。

## 「生涯現役!!」を目指して

東彼林業研究会は共同ハラン場に「生涯現役」と書いた看板を設置しています。これは、何歳になっても山に足を運ぶことで、足腰が鍛えられ、出荷作業には頭と指先を使うため認知症予防につながり、収入に結びつくことでさらに元気になる、という目標をもった会員でありたいという願いであります。私たちはハランの生産を通して、山間部の活性化を目指し、日本のハラン生産地を目標に「生涯現役」で頑張っていけます。

\*まとめ

会長 松本義法

事

私たちのチャレンジ！

例

# 森林環境教育で次世代へつなぐ

## 富山地区林業研究グループ協議会「富山県」



雪起し体験。森林を維持する大変さと、自然を守る大切さを学ぶ



伐倒見学。木を元気に育てることで環境が整うと知り、自然の仕事に興味をもつ児童もいた

### 「次世代へつなぐ山づくり」を目標に活動

富山地区林業研究グループ協議会は「自分たちの山

は自分たちで管理する」「次世代へつなぐ山づくり」を目標に昭和42年から活動を開始しています。大沢野・細入・婦中・大山の4つの支部で構成されており、会員は43名、会員の所有森林面積は約1070ha、人工林は約380ha（人工林率は36%）となっています。

今回は「次世代へつなぐ山づくり」に着目し、本協議会で取り組んでいる「森林・林業

を知ってもらうための森林環境教育や普及啓発活動」を通して、林業を担う後継者の育成についてご紹介します。

### 「次世代」の育成

「次世代へつなぐ山づくり」の目標のもと、「森林の情報」「森林を管理する技術」「集約化し整備された森林」の3つ



階段設置体験。できあがった時、嬉しそうにしていた



婦中支部の仲間と林業体験の小学生

を確実に次の世代につなぎたいと考えています。同様に、これらを引き継ぐ「次世代」の育成も重要と考えています。そこで、「森林との共生」が大切だという気持ちで育むために、小学生を対象とした森林環境教育や高校生を対象と



発表会の様子。「植えて、育てて、切って、使って、また植えて」という木の循環や、無花粉スギの内容が印象的

み、雪起し、下刈り、枝打ちなど、児童による林業体験活動を行ってきました。最近はこちらの体験を踏まえて、子どもたちが森林・林業について調べたことを私たちに発表してくれています。この体験活動は今年で15年目を迎え、地域の活動として根付いてきています。この先、森林環境教育を受けた子どもたちが大人になり、その子どもたちが

また、平成30年には県と連携し、土木工学科の高校生にハーベスタによる玉切り見学・ハーベスタへの乗車、防護具の着用・チェーンソーによる輪切り体験をしてもらいました。「林業は人や自然環境のために、なくてはならない仕事だと感じた」「将来の仕事選択の幅が広がった」などの声が聞かれ、林業の担い手を選択肢の一つとして具体的に認識してもらえたのではないかと思います。本協議会が携わった高校生の林業体験は一度

まとめ  
副会長 四田純夫

ですが、これをきっかけに、県が主催する高校生・大学生の林業体験が毎年行われるようになり、県内の広がりも生まれているようです。  
このような活動を続けていくことで、どの世代にも森林との関わりが生まれ、森林が身近な存在になっていくと信じています。  
今後も「次世代へつなぐ山づくり」を目標に、会員一同、協力し、さらに工夫を加えながら活動を続けていきたいと考えています。

した林業体験などに取り組んでいきます。  
**15年目を迎えて  
地域に根付く  
森林環境教育**  
地元の小学校6年生の課外活動は年に2回行っています。スギの各成長段階の見学、伐倒作業の見学のみならず、クラフト教室、植栽、根踏



ドローンで撮影。上空から見た自分たちの姿や手入れしたスギに感激



チェーンソーの体験（高校生）



高性能林業機械を見学（高校生）

事

私たちのチャレンジ！

例



薪の生産・買い取りと販売を兼ねた薪ステーション

五名里山を守る会「香川県」

# 薪販売で持続可能な里山づくりを！

薪・炭・シイタケ原木の生産が活動の中心

五名里山を守る会（会長・木村薫、会員数11名）は、香川県の東部に位置する東かがわ市五名地区で活動をしています。当地区は、昭和30年代のピーク時には1200名ほどが暮らし、200名以上が炭焼きに関わる林業が盛んな土地でした。現在は300名ほどが暮らしていますが、炭焼きに関わるのは本会に所属する4名だけとなって

います。

本会の活動の中心は薪、炭やシイタケ原木の生産事業です。里山の利活用の一環として設立当初から独立採算で行っています。

顧客の要望を取り入れて商品づくり

1年間の活動は冬にはじまります。11月から2月に自分たちで薪用の丸太を伐り出すとともに、地域の方や森林組合からも丸太が持ち込まれてきます。それを3月下旬から6月に玉切りや薪割りをし、10月から1月に箱詰めをして出荷します。薪が、東かがわ市のふるさと納税の返礼品となったことを受け、令和元年度には、新たに薪置き場と薪ステーション



薪用の丸太の集材。クヌギ・コナラを重宝

を建設して薪の増産に取り組みました。現在では年間150tの薪を販売しています。



▲薪をウッドバックやラックに入れて乾燥させる  
 ◀玉切りした丸太は、エンジン式の薪割機（26 t）を使用して薪割り

順調に進む一方で課題も  
 あります。現状では、増え  
 る需要に対して薪の原木が  
 足りていません。WEBサ  
 イトやチラシでPRをして  
 少しずつは集まってきてい  
 るものの、もっと買い取り  
 量を増やす必要があります。  
 自前で集められる薪は例年  
 20〜30tほどなので、今年  
 からは個人の方からの買い  
 取りも本格的にスタートし  
 ました。まだまだ技術・経  
 験が不足していますが、地  
 道な経験の積み重ねと柔軟

また、令和3年3月にW  
 EBサイトを開設したとこ  
 ろ、新規の購入者も徐々に  
 増えてきました。リピー  
 ターにもつながっており、  
 そのようなお客様からの要  
 望も取り入れながら試行錯  
 誤を繰り返しています。た  
 とえば、以前は中割ぐらい  
 のサイズの薪でそろえて箱  
 詰めをしていましたが、今  
 は大割を中心に、中割・  
 小割も適度に混ざるよう  
 に作っています。

新たな事業展開としては、目下  
 のところ、キャンプ場とツアーガ  
 イドがあります。  
 キャンプ場については、薪ス  
 テーションの隣が芝生広場となっ  
 ていて、何名かのキャンパーの方  
 な発想による知恵で、効率的かつ  
 安全な作業を目指しています。



薪の箱詰め出荷作業。最盛期には1カ月で約2000箱を出荷

**ここでしか  
 体験できない  
 事業の展開を**

\*まとめ  
 五名里山を守る会  
 薪ステーション責任者  
 戸井裕孝

から「キャンプ場に良  
 い場所ですね」という  
 お声をいただきました。  
 薪ステーションの薪で  
 のたき火、五名の炭で  
 のジビエバーベキュー、  
 星空観察を売りにして  
 いきたいと思っていま  
 す。また、五名の里山  
 は植物を見ながらのト  
 レッキングや星空観察  
 そして炭焼き体験に最  
 適です。ジビエ料理と  
 コラボすることでここ  
 でしか体験できないツ  
 アーを作れたらと思っ  
 ています。

WEBサイト  
 「五名里山を守る会」  
 五名の薪  
 gonmyo-maki.com

# 木の循環利用を学校林で丸ごと体験

FW・OGACHI(フォレストワーカー・ドット・おがち) [秋田県]

学校林で  
主伐と再造林の構想と連携

FW・OGACHIは、秋田県の内陸南部、湯沢市と雄勝郡の3市町村にて7名で活動しております。時代はSDGsやカーボンニュートラルのまっただ中、FW・OGACHIメンバーも地域林業の振興に携わりながら森林資源の循環利用や森林のカーボンニュートラルへの貢献について普及啓発に取り組んでいるところです。

今回は、学校林を所有している湯沢市立山田小学校と山田中学校において主伐と再造林の構想があることを聞いた当グループが、所管の林業普及指導員らとともに学校林を活用して子どもたちが森林資源の循環利用を体験し、カーボンニュートラルにおける森林の果たす役割を学んでもらおう、と活

事

私たちのチャレンジ!

例

実感①「木を伐る」



実際に学校林の木を伐る現場をその目で見て、伐採されたスギの木を触り、肌で木を感じていました

動したものです。

五感で「実感」を重視

具体的には「木を伐って木を

出して木を挽いて木を使って

くまた木を植えてくそして森を育てる」といった一連のサイクルを

自分たちの学校林で体験しちやお

う! という大胆かつ、ある意味

恵まれた体験です。ただ、内容が盛りだくさんになりましたので令

和3年と4年の2か年で4回の実

### 実感③「木を使う」



学校に戻り、見学した製材工場から生産された木材を用いて本棚を製作しました

### 実感②「木を挽く」



製材所の見学では木材から香り立つ匂いにも感激していました

### 実感⑤「森を育てる」



今回主伐しなかった若齢の学校林に移動しての枝打ち体験は、使い慣れない高枝のこぎりでしたが、みな汗をかきながら作業に熱中し、大変さも実感できたようです

### 実感④「また木を植える」



伐採跡地にて自ら苗木を植えて再造林を体験しました。自分たちの手で学校林を未来の後輩たちにリレーできたことを誇りに感じてほしいです

実践となりました。  
ここで当グループが心がけたのは、いかに「実感」してもらうか

です。知識は室内などで習得できますが、今回は自分たちの学校林での林業を実感できるまたとない

機会ですので、学校の先生たちと十分に相談をして、安全に、五感を通して感じてもらうことを重視

しました。「迫力ある伐採現場や製材所をその目で見る」「大きな音を聞く」「伐りたて挽き立ての木の匂いを嗅いで触る」「植栽・保育作業に汗を流す」などです。

### SDGsと実習がマッチ

小学5年生から中学3年生を対象にした実習でした。子供たちはちょうどSDGsについて勉強中だったこともあり理解・飲み込みが早く、学習中は答えきれないほどのたくさん質問を浴びせられタジタジにさせられました(汗)、より森林に興味を抱いたようです。

今回、学校林を使って森林資源が循環していることと、大切さを子供たちに実感してもらいました。将来を担う次世代の中から、森林・林業に携わる業界へ進んでいく子供たちが大勢現れることを期待して、引き続き啓発活動を実施していきます。

\*まとめ

雄勝地域振興局  
林業普及指導員 望月明剛

(所属は執筆時)

事  
私たちの実践  
例



# マツタケと薪ストーブに魅せられて

頸北<sup>けいほく</sup>林業研究会「新潟県」／小池秀則さん

マツタケ林再生の夢から  
林研参加へ

私は一度、高級旅館でマツタケ三昧の食事をしたことがあります。以来、マツタケの香りは私の脳に刻み込まれています。私が住む上

越市柿崎区米山<sup>べいざんじ</sup>寺地内でも、昭和40年代まであちこちでマツタケが採れていたと古老から聞いていま

した。そこで私は、農山漁村文化協会出版の「新特産シリーズ マツタケ」を購入してマツタケ林再生技術を独学しました。勉強し始めて、とても1人

理科・生物)でしたので、土曜日のみ参加していました。

マツタケは断念したが林研活動は広がる



頸北林業研究会のメンバー



9シーズン使った、薪ストーブ

でできる作業ではないと諦めていた時、頸北林業研究会(以下「林研」)のマツタケ林の再生を目指した活動を耳にしたのでした。すぐに参加することにしました。

林研の活動場所は、隣の吉川区です。活動は週2回(水・土曜日)でしたが、当時私は現役の教員(高校

マツタケ林の再生作業は、はじめのうちは順調でした。現場への林道の整備、雑木の伐採と後始末、枯れかけたマツの伐採・消毒・積み上げ・シートでの覆いと進みました。ところが、最後の落ち葉かきと腐葉土の除去作業を残した段階で、終わってしまいました。借りていた土地で相続問題が起こり、林研で使用できなくなったのでした。

こうして私の夢は中断しましたが、その後も林研の活動を続けています。スギ林の間伐、モウソウ

チク林の整備、シイタケのほだ木の伐採など作業は多岐に渡ります。また、高校生を対象に「森の仕事体験」と銘打った教育活動や、小学生の森の学習にも取り組みました。チェーンソーの整備・目立て、ナタ研ぎなどの



薪割りに使うオノ、掛矢、矢（金属のクサビ）

研修も年に1回は行っています。

## 薪ストーブのある暮らし

写真の薪ストーブは、この冬で9シーズンを終えました。

導入した直接のきっかけは、母の死です。以前から私は薪ストーブに憧れていましたが、母の生前に居間に設置したいと相談しても、母は反対でした。母の世代は、台所も風呂も居間の暖房（囲炉裏）もすべて薪でした。薪の準備から始末に携わってきた経験から、その大変さ故、反対したのだと今に

なつて理解しています。

薪ストーブを導入した最初の冬は、薪の準備がなかったため、父が残してくれた稲架木と冬囲い材を使いました。手ノコで切つて薪にしましたが、あまりに手間がかかるので、2年目にはチェーンソーを購入しました。2冬目の薪も、父が残した古材でまかなうことができました。

3冬目は、いよいよ自分で本格的な薪作りを始めました。当初は持ち山の木を伐り出そうと考えていました。ところが、私が薪ストーブを始めたことを聞いた近所の人



マツタケ林再生現場へ続く道の路網整備

や親戚から「屋敷の木を伐つてくれないか」、「倒した木を持って

いってくれないか」など、次々と薪材の提供がありました。この頃から、太い材を割らなくてはならなくなり、オノで薪割りを始めました。しかし、オノの背を金づちで叩いて、1本ダメにしてしまいました。そこで納屋にあった矢（金属のクサビ）も使っています。こちらはナツツバキの掛矢で叩いています。

林研の活動で出た材は、竹でもスギでも持ち帰り、薪にしています。燃やして出た灰は畑にまきま

す。

さて、かつて抱いていたマツタケ再生林の夢についてです。1度は敗れた夢でしたが、昨年度から復活しました。別の林業クラブが私の集落内で活動を始めたのです。私もすぐに参加しました。

マツタケが出るのは、うまくいっても5年、長ければ10年後です。それまで健康で事故なく林業を続けたいと思います。

\*まとめ

会長 小池秀則



小学生の「森の学習」で講師を務める

# 山に生きる姿を子どもたちにもたちに伝える

## 松阪林業研究会「三重県」

### 学校林を活用した 体験活動

松阪林業研究会は昭和51年から47年間、三重県松阪市内で活動する研究会です。その時々に応じたさまざまな活動を行ってきましたが、最近では地元の小学校からの要請で森林教育のお手伝いをするこ



教室での講義

とが多くなっています。松阪市立大河内小学校では4、5年生を対象に学校林を活用した間伐体験や、原木シイタケの栽培体験などを行っており、子どもたちに少しでも良い体験してもらえよう、毎年工夫しながら取り組んでいます。

### すべての子が参加 できる「体験」を

以前の間伐体験では、学校から少し離れた場所にある学校林で間伐や皮剥ぎ作業を体験し、現地での働きや森林整備の意義についてのお話をさせてもらっていました。しかし山の中だけでは子どもたちに話が伝わりにくいため、最近では事前に森林教育の講義を1、2時間行ってから、学校林での体験活動をしています。

昨年はクラスに障がいを持つお



校庭での皮剥ぎ作業体験の様子

事

私たちのチャレンジ!

例



菌打ち体験



子さんがいて、その子は学校林へ入って体験することが難しいとのことでした。何とか一緒に体験し



本伏せの様子

てもらう方法はないか先生方と検討し、研究会のメンバーで間伐した丸太を校内に運ぶことになりました。校庭で直接木に触れながら、皮剥ぎや手ノコによる玉切りをする体験活動です。学校の中だったので、障がいのあるお子さんも一緒に参加でき、皮を剥いだ時のなめらかな木の感触や香りを、みんなでも共有することができました。

栽培体験は、学年を超えて学習をしています。4年生で菌打ち・仮伏せした原木を5年生で本伏せします。5～6年生で収穫をして、卒業時には原木を自宅へ持ち帰るという流れです。また、仮伏せの意味を理解してもらうため、5年生が本伏せを行う際、仮伏せしていた原木にナタ目を入れます。そうして1年かけてシイタケ菌が原木に回る状況を見てもらいます。

### 実際の原木栽培に近い体験を

最近では、原木栽培は時間と手間がかかるため、生産者が減少しています。しかし地域の里山を守りながら、自然の営みを上手に利用して行う原木栽培の良さを少しでも子どもたちに知ってもらいたいです。

◆ 時の流れとともに社会が森林に求めることも少しずつ変わってきますが、私たちが地域の山とともに生きる姿勢は変わりません。これからも地域に寄り添い、森林整備の必要性や地域産業の良さを子どもたちに伝えていきたいです。

\*まとめ

会長 川井逸夫



収穫の様子

事

私たちのチャレンジ!

例

# 体験教室で森林の魅力伝える

## 栃木市林業振興会「栃木県」

### 森を育む人づくり

栃木市林業振興会では「森を育む人づくり」をテーマに、森林環

境譲与税等を活用し、林業体験教室などを開催しています。体験教室を通じて、会の設置目的のひとつである「地域林業の振興」の実現に向け、

継続的に取り組んでいる活動を紹介します。

まず小学生を対象とした「林業体験教室」についてご説明します。この活動は、会のメンバーが所有する森林を会場として、地元の森林組合と提携し、地元の小学6年生の児

童に間伐体験をしてもらっているものです。例年、小学校が夏休みとなる7月下旬から8月上旬のうちの1日で実施しています。

グループごとに1本ずつ、事前に振興会のメンバーが選んでおいた木の伐倒、玉切りを順番で体験してもらい、即席コースターを作るという内容です。

参加する児童の多くが山の近くに住んでいるのですが、実際に山仕事を目にしたことのある児童は

少ないため、林業に対する理解と関心を深めてもらう貴重な機会となっております。

伐倒後、玉切りをして、即席コースターが完成



栃木市林業振興会のメンバーの指導を仰ぎながら、児童が伐倒に挑戦中





屋外に出てバーナーであぶり、焼き色をつける。普段できない活動で楽しそう



親子で協力してプランター作り。くぎを打つ位置に印をつけている様子



ホタルとカワニナを流れの緩やかな川に放流。無事にふ化しますように！



講師の先生によるホタル講座。小学生は資料とにらめっこ

### 森林の多様な 姿に親しむ

次に、「水とみどりのふれあい体験教室」についてです。

この活動は、栃木市内の流出ふれあいの森を会場として、木工教室、ホタルの幼虫放流会などを実施しています。例年2月中旬の土曜日に実施しており、市の広報紙で児童および保護者を対象とした一般募集を行っています。

ある木材を親子で協力し、くぎ打ちをして組み立てます。最後にバーナーであぶって出来上がりです。ホタル幼虫の放流会では、公園内の川の流れが緩やかなところに、ホタルの幼虫とその餌になるカワニナを放流します。

この教室では、一日のうちに複数の体験をしていただくことで、森林の多面的機能に関する理解を深めてもらうよい機会となります。

### グループ活動で 林業を体験する楽しさ

クラスの仲間、親子で話し合いながら作業をすることで、アイデアやコツをつかんで、みるみる上達していくのがわかります。特に小学生や未就学児のお子さんには、みんなうれしそうに作業し、楽しかったという声を多くいただいています。

今後も継続的な活動を通じて、地域林業の振興を図っていきたくと考えています。

\*まとめ

会長 篠崎藤重

事

私たちのチャレンジ！

例

# スマホを持って 所有林を探しに行こう！

## 大江町光林会「山形県」

若い世代に  
興味を持ってもらう

近年、全国的に所有者不明土地が社会問題化している中で「山林を相続したが所在が分からない」「地籍調査が終わっているのに杭

が見当たらない」「所有する山林の場所を子や孫に伝えたい」といった森林所有者の声が多く聞かれます。このような現状に対し、

大江町光林会（以下、光林会）は、若い世代に興味を持ってもらうにはどうしたらよいかを考え「スマホを持って所有林を探

しに行こう」研修会を開催することにした。

### 地図アプリを 使って 境界線を歩く

研修会の内容は、スマートフォンで地図アプリを使って自分の土地の地籍データを表示しながら所有林を探す

方法と、山林相続の基礎知識を学ぶというものです。

専門的な知識が必要なため、地域の専門家にも協力を求めました。最初に、研修の意図を明確にすべく、各組織の思いや得意分野を話し合い、次のように状況を共有しました。

- ・山形県行政書士会／相続等の相談を受けている所有山林の不明確などの問題に直面している
- ・山形森林調査協会／ICT技術に精通しており、森林境界明確化業務等を受託している
- ・光林会／所有山林の管理や相続に関する不安や悩みを持つ当事者
- ・山形県村山総合支庁／森林経営管理制度や森林ノミックスの



Google Earth で法 14 条地図（登記所に備え付けられている地図）の所有界を表示させたところ



大江町光林会は昭和56年4月に発足。25名（男性21名・女性4名）で活動中

法14条地図／登記所に備え付けられている地図。

土地の位置及び区画（筆界）を現地に正確に再現できるとされています

推進には、山林の相続や境界の明確化が不可欠と認識している



当日は、行政書士会と山形森林

調査協会に講師を務めてもらい、

次のような内容で行いました。

①山林の相続の話（相続税の基礎、所有者（共有者）不明森林への対応など）

②山林相続の留意点（境界確定、土地の所有者届出制度、法改正・国庫帰属法など）

③法務局から地図（法14条地図）を入手する方法、地籍調査の状

況

④法14条地図を位置情報付のデジ

タルデータ（KML形式）に変

換する方法

⑤スマホにGoogle Ear

thをインストールし、KML

データを表示させる方法

⑥スマホを見ながら現地の境界線

を歩く（杭を探す）

**自分がやりたかったことはこれだ！**

今回は光林会の会員とその後継者等14名が参加し、方法を学ぶと

ともに、一般に広く普

及していくための手法

の検証も行いました。

参加者は自分のスマ

ホを見ながら境界線と

杭を探し、自分が動く

ごとに地図アプリの中

の自分の位置情報も一

緒に移動していくこと

を確認し、とても感動

した様子でした。

【参加者の話】

前から帰ってくる度

に親と一緒に山に行っ

て、場所を聞いたり写

真を撮ったり動画を撮った

りして覚えようとしたが、

後でみると全然分からな

い。何か方法はないだろう

か？と、いろいろ調べて

いたが、これといったもの

が見つからなくて困ってい

た。今回参加してみても「自

分がやりたかったことはこ

れだ！」と思った。

（首都圏から帰省し親と一

緒に参加した後継者の方）

場所もわからず困ってい

たが、今回の研修会はよ

かった。これでじいさんからの土

地も分かるようになると思うと、

気持ちも軽くなるよ。

（祖父が亡くなって半年後に親を

亡くされた方）



前述の研修会は令和4年11月の

開催でしたが、令和5年1月23日

から、登記所備付地図の電子デー

タがG空間情報センターを介して

インターネットで一般に無償公開

されており、これを用いた「MA

PPLE法務局地図ビューア」(株

式会社マップル)の利用が可能に

なりました。



スマホで確認して境界を歩く参加者。集約化後の間伐施業の記録への応用も検討中

このため光林会では、令和5年

9月22日に、このビューアを用

いた「スマホで探そう自分の森

林、手入れをしよう自分の森林

」と題した研修会を「大江町美し

い、この手法の有効性が大江町長

はじめ町内の森林業者関係者に認

識されました。森林所有者の立場

に立った大江町光林会の取組みは、

また1歩前進しています。

\*まとめ

山形県村山総合支庁森林整備課

森林総合監理士 工藤吉太郎

事

私たちのチャレンジ!

例

# 宮崎県産「原木椎茸」を 食のプロを通じて世界へ発信!!

## 高原町林業研究グループ「宮崎県」

### 駒打ち体験を通じた 木育活動

高原町林業研究グループは、農林業を生業にしている平均年齢60歳代の会員3名で活動しています。約15年前から地元のイベントなどで、原木椎茸駒打ち体験を通じた木育活動を行ってきました。また宮崎市で行われる特用林産物即売市などでも、原木乾椎茸のアピールをしています。

私は高原町林業研究グループの一員として活動するとともに「田中椎茸」のブランドで、原木椎茸の生産や加工、販売を行っていますので、その取り組みを紹介いたします。

### 原木椎茸の 良さをアピール

多くの消費者は原木椎茸と菌床椎茸の違いが判別できず、今やキノコ類の一部でしかない現状があります。原木椎茸の生産は、昔な



がらの生産方法で手間がかかりますが、安全・安心で食感も良く、うまみがあります。これから先は、省力化（機械化等）に取り組んでいかなければならないと感じています。しかしながら、

生産工程が人力作業で、重労働の割には安値で取り引されており、後継者不足の要因にもなっています。

私は、原木椎茸を少しでも高値で販売できるように、10数年前から6次産業化に取り組んでおり、有機JAS認証やひなたGAP認証（※1）も取得し



地元のイベントでの原木椎茸駒打ち体験

ました。また、林研会員として県林研連主催のイベントなどでも原木椎茸の良さをアピールしながら、試食販売等を行ってまいりましたが、しんもえだけ新燃岳噴火の際には降灰による被

※1 ひなたGAP認証／農産物の適正な作業手順や物の管理を行う手法、GAP(GoodAgriculturalPractice)の宮崎県版



森林・林業に関わりや興味がある女性の交流会「ひなたもりこ」の料理講習

用したガラディナー（※2）が東京の一つ星レストランで開催され、原木椎茸を提供することになりました。都心の著名なシェフが集まる試食会ではシェフ目線の辛口コメントがある中、「五感で味わえる、こんなにおいしい椎茸を食べたことがない」と絶賛していただきました。そこから話が広がり、令和5年11月

9日に東京で開催されるフランス料理コンクールの決勝の場で、田中椎茸の原木椎茸が食材に決定し、コンクール後の受賞パーティーでも原木椎茸を使った料理が振舞われることになりました。

令和6年1月15日にはヨーロッパでのプロモーションも企画されており、胸躍る日々を過ごしていきます。原木椎茸が海外展開への架け橋となることを期待しております。

このようにプロのシェフのみな

＊まとめ  
会員 邊木園浩子

さまのお力添えで世界へとつながり、原木椎茸の需要拡大、販路拡大に前進することができました。私たちの活動を通じて「生産者が元気になる!!」「後継者につながる!!」ことを目指し、原木椎茸生産者の存続のために、これからも頑張りますので、応援よろしくお願いたします。

## 海外展開への架け橋になることを期待

害で全ての椎茸を廃棄しなければならなかったこと、新型コロナウイルス感染症の影響により消費が激減したことにより、大きな打撃を受けました。

このような中、私は県内のフレンチシェフに協力していただき、原木椎茸を使ったディナーの開催、調理師専門学校での調理指導やコンテスト・原木椎茸のレクチャー等を行ってきました。

令和5年1月には、県産品を使



プロのシェフによる原木椎茸を使った料理の数々



県内各地で開催したディナー





卷末資料

# 林業で働くために

## 林業の仕事いろいろ

林業の仕事には大きく分けると、森林を植えて育てたり、木を伐る仕事を担う民間の林業会社、森林所有者を組合員として地域の森林経営を担う森林組合の2つがあり、木材産業では、木材を取り扱う原木市場や木材会社があります。最近では企業団体の先進化・多様化が進み、新しいスタイルを模索する林業の現場も増えてきています。

### 林業会社

森林所有者から立っている木を買って伐採して市場などに販売する形態が多いです。また、造林を専門に行う会社もあります。最近では、建設業から参入している会社も見られます。

### 森林組合

森林所有者を組合員とした協同組合です。森林がある全国のほとんどの地域をカバーしており、約600あります。

国や都道府県の森林林業関係の助成制度の受け皿として、地域の森林経営の推進役として様々な業務を担っています。

組合によっては森林作業班を独自に持ち、さらには原木市場や木材加工施設や販売施設を経営しているところもあり、その形態は様々です。

### 原木市場

林業会社や森林組合から集荷された木材の市を開催して製材工場などに販売しています。近年は山の現場から直接大型工場へ直送されるケースも増えてきたことから、木材の供給先と需要先を情報で繋ぐ新たな形態が期待されています。

### 木材会社

従来の丸太から板や柱を挽く製材工場、ラミナと呼ばれる木片から柱などを生産する集成材工場、丸太を剥いて重ねて板を生産する合板工場、柱材を建材に加工するプレカット工場などがあります。近年は大型化が進んでいます。一方、家具や小物をつくる会社も多くあります。

## Q&A

### Q 体力的な条件などはありますか？

A 林業機械の導入が比較的進み、男女の体力差が問われない作業環境になってきています。また森林施業プランナーなど比較的体力を重視しない職種もあります。

### Q 危険な作業が多く、安全面で心配です。

A 安全を重視した林業技術を習得する研修制度があります。また、安全防護装備も近年急速に普及しています。機械の改良も進み安全に対する意識は高まっていますが、常に自分自身が安全への意識を持って仕事に取り組むことが大切です。

### Q 女性の場合、トイレや着替えはどうしていますか？

A 移動式トイレを導入する会社もあります。また着替えについては移動中に公衆トイレなどへ立ち寄るなどの配慮をする会社もあるようです。

### Q 女性特有の体調不良や産休・育休にも対応してくれますか？

A 会社ごとの判断になりますが、女性を採用する会社の多くはそうした配慮ができているところが多い傾向があります。会社を選ぶ際によく確認してみましょう。

# 林業で働くための方法

## 就職を希望しているなら・・・

### ■ 森林の仕事ガイダンス

森林の仕事ガイダンスは、新たな林業の担い手の確保・育成を目的に、森林・林業に関心を持つ方を対象に実施する説明・相談会です。会場には、参加都道府県の林業労働力確保支援センターや森林組合連合会が相談ブースを設け、各地の林業に関する情報、林業作業の内容や就業までの流れについての説明、参加者からの相談に応じます。



森林の仕事ガイダンス風景。写真は森林組合の林業現場で働く女性。このガイダンスで先輩の説明を聞いて東京から就業した女性もいます。

### ■ インターンシップ

地元の森林組合や林業会社で短期間のインターンシップを体験して、就業を決めるケースもあります。各都道府県の林業労働力確保支援センターにお問い合わせ下さい。

## もっと林業を学んでから就職を考えたいなら・・・

### ■ 林業大学校等への進学

近年、林業就業者の育成を目的とした林業大学校等（教育・研修機関）の設立が相次いでいます。多くが1年制あるいは2年制で、高校卒業を入学資格としている例が多いようです。2024年2月時点で、27校となっており、さらなる新設も予定されています。林業大学校等は都道府県等が設置・運営している学校です。また4年制大学への編入受験資格の取得が可能な学校もあります（専修学校）。

10～20名程度を定員としているところが多く、実習に力を入れており、森林・林業に関する様々な資格取得が可能です。卒業後は林業現場の即戦力として活躍している若者が全国で増えています。

### ■ 大学への進学

森林・林業に関する学科・科目がある大学は、2023年4月時点で全国に33校あります。森林科学科や生物環境科学科など学科の名称は大学によって様々で、各大学の地域性や伝統など、その大学ならではの強みや個性が見られます。大学で学んだ知見を生かし、卒業して林業の仕事に就く若者も少なくありません。



## 森林・林業に関する学科・コース設置校一覧表（林業大学校等）

令和6年2月現在 ※林野庁HPを参考に編集部で作成

都道府県	学校名	郵便番号	所在地	電話番号	修学・ 研修期間	該当学科等
北海道	北海道立北の森づくり専門学院	078-8381	旭川市西神楽1線10号	0166-75-6161	2年制	林業・ 木材産業学科
青森	青い森林業アカデミー	039-3321	東津軽郡平内町大字小湊字新道46-56 (青森県産業技術センター林業研究所研修棟)	017-763-4022	1年制	
岩手	いわて林業アカデミー	028-3623	紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560-11	019-697-1536	1年制	
秋田	秋田県林業研究研修センター (愛称:秋田林業大学校)	019-2611	秋田市河辺戸島字井戸尻台47-2	018-882-4512	2年制	秋田県林業 トップランナー 養成研修
山形	山形県立農林大学校	996-0052	新庄市大字角沢1366	0233-22-1527	2年制	林業経営学科
福島	林業アカデミーふくしま	963-0112	郡山市安積町成田字西島坂1 (福島県林業研究センター)	024-945-5974	1年制	就業前長期研修 短期研修
栃木	栃木県林業大学校 ※令和6年4月開校予定	321-2105	宇都宮市下小池町280	028-669-2211	1年制	
群馬	群馬県立農林大学校	370-3105	高崎市箕郷町西明屋1005	027-371-3244	2年制	農林業 ビジネス学科 (森林コース)
福井	ふくい林業カレッジ	918-8567	福井市江端町20-1	0776-38-0345	1年制 3ヵ月	長期コース 短期コース
山梨	専門学校山梨県立農林大学校	400-0502	南巨摩郡富士川町最勝寺2290-1	0556-42-7080	2年制	養成科森林学科
長野	長野県林業大学校	397-0002	木曾郡木曾町新開4385-1	0264-23-2321	2年制	林学科
岐阜	岐阜県立森林文化アカデミー	501-3714	美濃市曾代88	0575-35-2525	2年制	森と木の クリエイター科 森と木の エンジニア科
静岡	静岡県立農林環境専門職大学・ 短期大学部	438-0803	磐田市富丘678-1	0538-31-7901	4年制 2年制	生産環境経営学 部 生産環境 経営学科 生産科学科
京都	京都府立林業大学校	629-1121	船井郡京丹波町本庄土屋1番地	0771-84-2401	2年制	森林林業科
兵庫	兵庫県立森林大学校	671-4142	宍粟市一宮町能倉772-1	0790-72-2700	2年制	専攻科
奈良	奈良県フォレスターアカデミー	639-3113	吉野郡吉野町飯貝680	0746-42-8100	2年制 1年制	フォレスター学科 森林作業員学科
和歌山	和歌山県農林大学校	649-2103	西牟婁郡上富田町生馬1504-1	0739-47-4141	1年制	林業研修部 (林業経営 コース)
鳥取	日南町立にちなん中国山地 林業アカデミー	689-5224	日野郡日南町多里782-2	0859-84-0070	1年制	林業専修科
島根	島根県立農林大学校	690-3405	飯石郡飯南町上来島1207 島根県中山間地域研究センター内	0854-76-2100	2年制	林業科
徳島	とくしま林業アカデミー	770-0045	徳島市南庄町5丁目1-9	088-635-7812	1年制	
徳島	三好林業アカデミー ※令和6年4月開校	778-0002	三好市池田町マチ2551番地1 「池田町農村婦人の家」内	0883-87-7667	1年制	
香川	香川県立農業大学校 ※令和6年4月開講	766-0004	香川県仲多度郡琴平町榎井34-3	0877-75-1141	2年制	林業・造園緑化 コース
愛媛	南予森林アカデミー	798-1351	北宇和郡鬼北町大字奈良4073-7 一般社団法人南予森林管理推進センター	0895-49-5083	1年制	
高知	高知県立林業大学校	782-0078	香美市土佐山田町大平80	0887-52-0784	1年制	基礎課程 短期課程 専攻課程
熊本	くまもと林業大学校	862-8570	熊本市中央区水前寺6丁目18-1	096-333-2444	1年制	長期課程
大分	おおいた林業アカデミー	879-5114	由布市湯布院町大字川北899-91 大分県林業研修所	0977-85-2488	1年制	
宮崎	みやざき林業大学校	883-1101	東臼杵郡美郷町西郷田代1561-1 宮崎県林業技術センター	0982-66-2888	1年制	

注：地方公共団体の研修機関又は学校教育法に基づく専門職短期大学、専修学校若しくは各種学校のうち地方公共団体が設置しているもので、修学・研修期間がおおむね1年かつおおむね1,200時間以上であり、期間を通して林業への就業に必要な技術や知識を習得させる学校等を掲載。

令和5年度 未来の林業を支える林業後継者養成事業 実施グループ一覧

都道府県	林研名	活動内容	対象学校
北海道	北海道林業グループ協議会 ★8頁	高校生等の林業就業体験等	岩見沢農業高校、旭川農業高校、帯広農業高校、札幌工科専門学校
宮城県	仙南フォレストクラブ	高校生等の林業就業体験等	大河原産業高校、白石高校七ヶ宿校
	津山町林業研究会	高校生等の林業就業体験等	古川工業高校
秋田県	北秋田森林・林業振興会 ★12頁	高校生等の林業就業体験等	秋田北鷹高校
福島県	福島県林研グループ連絡協議会	林業グループの林業振興活動	
	館岩グリーンフォレスタ	林業グループの林業振興活動	
茨城県	茨城県林業研究グループ連絡協議会	高校生等の林業就業体験等	大子清流高校
栃木県	栃木県林業振興協会	高校生等の林業就業体験等、林業グループの林業振興活動	鹿沼南高校、一般
群馬県	NPO法人ロガーズ	林業グループの林業振興活動	
埼玉県	埼玉県森林協会 林業研究グループ部会	高校生等の林業就業体験等	秩父農工科学高校
東京都	特定非営利法人青梅林業研究グループ	高校生等の林業就業体験等	多摩工業高校
神奈川県	なかい里山研究会	林業グループの林業振興活動	
富山県	魚津地区林業研究グループ協議会	高校生等の林業就業体験等	桜井高校
山梨県	山梨県林業研究グループ連絡協議会	高校生等の林業就業体験等	県立農林高校
長野県	長野県林業研究グループ連絡協議会	高校生等の林業就業体験等	県内全高校
	南信州林業研究会 ★16頁	高校生等の林業就業体験等	下伊那農業高校
	木曾林業研究グループ連絡協議会	高校生等の林業就業体験等	木曾青峰高校、県林業大学校
	長野市中条地区林業研究グループ	高校生等の林業就業体験等	長野西高校中条校
	北信州の森林と家をつなぐ会	高校生等の林業就業体験等	下高井農林高校
岐阜県	四賀林研グループ	林業グループの林業振興活動	
	加子母優良材生産クラブ	高校生等の林業就業体験等	加子母木匠塾に参加する大学生
	高根町林業改良クラブ ★20頁	高校生等の林業就業体験等	飛騨高山高校
愛知県	付知町優良材生産研究会	林業グループの林業振興活動	
	愛知県指導林家連絡協議会	高校生等の林業就業体験等	猿投農林高校、田口高校
三重県	額田林業クラブ	林業グループの林業振興活動	
	熊野林星会	高校生等の林業就業体験等	紀南高校
京都府	松阪林業研究会	林業グループの林業振興活動	
	京都府林業研究グループ連絡協議会 ★24頁	高校生等の林業就業体験等	北桑田高校
和歌山県	樹々の会	林業グループの林業振興活動	
	和歌山県林業研究グループ連絡協議会 女性林研部会 ★28頁	高校生等の林業就業体験等、林業グループの林業振興活動	りら創造芸術高校、南部高校龍神分校
島根県	島根県林業研究グループ連絡協議会	林業グループの林業振興活動	
岡山県	岡山林業未来会	高校生等の林業就業体験等、林業グループの林業振興活動	真庭高校、勝間田高校
広島県	ひろしま森林施業プランナー会	林業グループの林業振興活動	
山口県	山口県林業研究グループ連絡協議会	高校生等の林業就業体験等、林業グループの林業振興活動	山口農業高校、萩商工高校、大津緑洋高校
徳島県	かみやま林業振興会	高校生等の林業就業体験等	城西高校神山校
	馬路「夢いっぱい」会	高校生等の林業就業体験等	池田高校
	西井川林業クラブ ★32頁	高校生等の林業就業体験等	井川中学校、西井川小学校
愛媛県	愛媛県林業研究グループ連絡協議会 ★36頁、40頁	高校生等の林業就業体験等、林業グループの林業振興活動	西条農業高校、上浮穴高校、北宇和高校
熊本県	上益城地区林業研究グループ連絡協議会 ★44頁	高校生等の林業就業体験等	矢部高校
	八代地域林業研究・普及連絡協議会	高校生等の林業就業体験等	八代農業高校泉分校
	芦北地域林業研究グループ	高校生等の林業就業体験等	芦北高校
	球磨地区普及・林研グループ連絡協議会	高校生等の林業就業体験等	南陵高校
	天草林業研究グループ連絡協議会	林業グループの林業振興活動	
大分県	大分県林研グループ連合会	高校生等の林業就業体験等	日本文理大学
宮崎県	門川町林業研究グループ連絡協議会	高校生等の林業就業体験等	門川高校
鹿児島県	鹿児島県林業研究グループ連絡協議会 ★48頁	高校生等の林業就業体験等	伊佐農林高校
	錫山センリョウグループ	林業グループの林業振興活動	

★は、本事例集第1部で紹介しているグループ。数字は紹介頁をさす。

## 全国林業研究グループ連絡協議会 事務局一覧

全国林業研究グループ連絡協議会は、46都道府県の林業研究グループ連絡協議会（一部名称が異なる）を会員とし、傘下には森林所有者および林業に従事する者等を構成員として、森林づくり、人づくり、地域づくりを担っている自主的なグループです。

名 称	郵便番号	住 所	電話番号
全国林業研究グループ連絡協議会	100-0014	東京都千代田区永田町 1-11-30 サウスヒル永田町 5F	03-3500-5035
北海道林業グループ協議会	060-0004	札幌市中央区北 4 条西 5 丁目 林業会館内	011-261-9022
青森県林業研究グループ連絡協議会	039-1528	三戸郡五戸町大字浅水字陣場 92-2 三八地方森林組合内	0178-67-2003
岩手県林業研究グループ連絡協議会	028-3623	紫波郡矢巾町大字煙山 3-560-11 県林業技術センター内	019-698-1337
宮城県林業研究会連絡協議会	981-3602	黒川郡大衡村大衡字はぬ木 14-1 県林業技術総合センター内	022-345-2887
(一社) 秋田県森と水の協会 林業後継者部会	010-0941	秋田市川尻町字大川反 170-169 森林環境会館内	018-883-1252
山形県林業グループ連絡協議会	990-2473	山形市松栄 1-5-41 山形県森林協会内	023-666-4331
福島県林研グループ連絡協議会	960-8043	福島市中町 5-18 林業会館内	024-521-3245
茨城県林業研究グループ連絡協議会	311-0122	那珂市戸 4692 県林業技術センター内	029-295-7318
栃木県林業振興協会	320-8501	宇都宮市塚田 1-1-20 県林業木材産業課内	028-623-3273
群馬県林業研究グループ連絡協議会	371-0854	前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル 6F	027-280-6254
埼玉県森林協会の林業研究グループ部会	357-0212	飯能市井上 138 木楽里内	042-970-2007
千葉県林業研究グループ連絡協議会	270-1362	印西市亀成 161	0476-42-2210
東京都林業研究グループ連絡協議会	190-0181	西多摩郡日の出町大久野 7852 東京都森林協会内	042-597-2881
神奈川県林業研究グループ連絡協議会	243-0018	厚木市中町 2-13-14 サンシャインビル 604 神奈川県森林協会内	046-240-0500
新潟県林業研究会連絡協議会	950-8570	新潟市中央区新光町 4-1 県林政課経営指導係内	025-280-5326
富山県林業研究グループ協議会	930-0004	富山市桜橋通り 5-13 富山興銀ビル 4 階 県森林政策課内	076-444-3387
石川県林業研究グループ連絡協議会	929-0325	河北郡津幡町字加賀爪 1 湊端良子様方	076-254-5337
福井県山林協会普及部会林研分科会	910-0003	福井市松本 3 丁目 16-10 福井県職員会館ビル 2F	0776-23-3753
山梨県林業研究グループ連絡協議会	400-8501	甲府市丸の内 1-6-1 県庁林業振興課内	0551-42-1006
長野県林業研究グループ連絡協議会	380-0936	長野市岡田町 30-16 林業センタービル内 (一社) 長野県林業普及協会内	026-226-5620
岐阜県林業グループ連絡協議会	501-3714	美濃市曾代 88 県立森林文化アカデミー内	0575-35-2535
静岡県林業研究グループ連絡協議会	420-8601	静岡市葵区追手町 9 番 6 号 県庁西館 9 階 (公社) 静岡県山林協会内	054-255-4488
愛知県森林協会の林業研究グループ分科会	460-0001	名古屋市中区丸の内 3-5-16 愛知県林業会館内	052-961-9730
三重県林業研究グループ連絡協議会	514-0003	津市桜橋 1 丁目 104 番地 (林業会館) 林業技術普及協会内	059-228-0924
滋賀県林業研究グループ連絡協議会	520-2144	大津市大萱 4 丁目 17 番 30 号 林業協会内	077-599-4572
京都府林業研究グループ連絡協議会	604-8424	京都市中京区西ノ京樋ノ口町 123 京都府森林組合連合会内	075-841-1030
大阪府		(事務局なし)	
兵庫県林業研究グループ連絡協議会	671-2515	宍粟市山崎町五十波 430 森林林業技術センター内	0790-62-2118
奈良県林業研究グループ連絡協議会	636-0202	磯城郡川西町結崎 862-29 衣田雅人 様方	0745-43-1327
和歌山県林業研究グループ連絡協議会	640-8585	和歌山市小松原通 1-1 県庁林業振興課内	073-441-2960
鳥取県林業研究グループ連絡協議会	680-0411	八頭郡八頭町船岡殿 539	0858-72-1140
島根県林業研究グループ連絡協議会	690-8501	松江市殿町 1 番地 県農林水産部林業課内	0852-22-5153
岡山県林業研究グループ連絡協議会	700-8570	岡山市北区内山下 2-4-6 県林政課内	086-226-7451
広島県林業研究グループ連絡協議会	730-8511	広島市中区基町 10-52 県農林水産局森林保全課内	082-513-4840
山口県林業研究グループ連絡協議会	753-8501	山口市滝町 1 - 1 県森林企画課内	083-933-3460
徳島県林業研究グループ連絡協議会	771-0134	徳島市川内町平石住吉 209-5 徳島健康科学総合センター 2F (公社) 徳島森林づくり推進機構内	088-679-4103
香川県林業普及協会	760-0008	高松市中野町 23-2 香川県森林組合連合会内	090-7626-1788
愛媛県林業研究グループ連絡協議会	791-1205	上浮穴郡久万高原町菅生二番耕地 280-38 県林業研究センター内	0892-21-2266
高知県林業研究グループ連絡協議会	783-0055	南国市双葉台 7 番地 1 高知県森林組合連合会内	088-855-7050
福岡県林業研究グループ連合会	839-0827	久留米市山本町豊田 1438-2 県資源活用研究センター内	0942-45-7868
佐賀県林業研究グループ連絡協議会	840-0212	佐賀市大和町大字池上 3408 林業試験場内	0952-62-0054
長崎県林業研究グループ連絡協議会	854-0063	諫早市貝津町 1122 番地 6 林業会館内	0957-25-0177
熊本県林業研究グループ連絡協議会	862-8570	熊本市中央区水前寺 6 丁目 18-1 県森林整備課内	096-333-2438
大分県林研グループ連合会	870-8501	大分市大手町 3-1-1 県林務管理課内	097-506-3823
宮崎県林業研究グループ連絡協議会	880-8501	宮崎市橘通東 2 丁目 10 番 1 号 県森林経営課内	0985-26-7154
鹿児島県林業研究グループ連絡協議会	892-0816	鹿児島市山下町 9-15 鹿児島県林業改良普及協会内	099-223-8550
沖縄県林業研究グループ連絡協議会	900-8570	那覇市泉崎 1-2-2 県森林管理課内	098-866-2295

---

編集スタッフ———岩渕 光則  
齊藤 恵巳  
石井 圭子  
吉田 憲恵

レイアウト———森本 唯

装丁———クリエイティブ・コンセプト（松田 晴夫）

---

令和5年度 未来の林業を支える林業後継者養成事業  
**体験で知る林業の仕事**  
未来の担い手を応援しよう 林業後継者育成活動事例集

---

発行———令和6年3月15日

発行者———齋藤 正

発行所———全国林業研究グループ連絡協議会(全林研)  
〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-30 サウスヒル永田町5F  
電話 03-3500-5035  
FAX 03-3500-5038  
webサイト <http://www.ringyou.or.jp/rinken/index.html>  
<https://zenrinken.com>



全林研 Youtube チャンネル  
チャンネル登録をよろしく  
お願いします。



全林研 Facebook  
「いいね!」をよろしく  
お願いします。

編集———全国林業改良普及協会

印刷・製本所———株式会社丸井工文社

---

Printed in Japan

- 本書に掲載される本文、写真のいっさいの無断複写・引用・転載を禁じます。
- 著者、発行所に無断で転載・複写しますと、著者および発行所の権利侵害となります。



